

ANNUAL REPORT

2011—2012

No. 35



Division of Policy and Planning Sciences,
Faculty of Engineering, Information and Systems,
University of Tsukuba

筑波大学システム情報系社会工学域は、社会問題（経済，経営，都市・地域等に関わる諸問題）を理工学的（分析的，数理的，計量的）アプローチによって解明し，政策的および計画的な意味合いを見出すという研究上の共通目標をもつ研究者の組織である。本域教員は，教育組織として大学院システム情報工学研究科社会システム・マネジメント専攻，社会システム工学専攻，経営・政策科学専攻に専任または兼担として所属している。それぞれの構成員は，国際的に認められる質の高い研究成果を上げるように，また良き教育者であるように努めている。

2012年7月現在の本専攻所属の教員は，教授24名，准教授25名，講師8名，助教3名の合計60名である。本専攻教員の2011年度中の研究・教育活動は，以下のように総括できる。

(1) 研究活動

本専攻の研究活動は，2011年度も全分野（社会経済，経営工学，都市計画）にわたって活発に展開した。論文・著書に関しては，著書数が2010年度に比べて大きく伸び，最も重視している審査付論文数についても着実に増加し高水準を維持しており，そのうち英語論文数は増加傾向を保持している。競争的研究資金の積極的導入に努め，外部研究資金を着実に獲得している。2011年度の受託研究・共同研究は18件であった。科学研究費の採択本数は61件であり，採択金額も，前年度に比べて大きく増加した。受賞は，国内外から8件であった。以上のように，本域の教員数が減少したが，研究活動の絶対量は大きく増加した。

また，研究教育活動をさらに加速させるために組織力を保持するグループ研究を促進している。2012年7月現在，リサーチユニット6件，リサーチグループ13件にて本域教員が代表者となっている。

(2) 教育

本域の教員が関連する大学院教育組織は，システム情報工学研究科博士後期課程社会システム・マネジメント専攻，リスク工学専攻に加えて，同研究科博士前期課程の社会システム工学専攻，経営・政策科学専攻，リスク工学専攻，生命環境科学研究科環境科学専攻である。学類教育組織は，理工学群社会工学類，および社会・国際学群国際総合学類である。

これら教育組織ではカリキュラム等教育体制を定期的に見直してきた。加えて，社会システム・マネジメント専攻，社会システム工学専攻，経営・政策科学専攻では，2008年度より院生活動支援プロジェクトを実施し，自前の予算で学生による国内外の研究発表を経済的に支援してきた。2011年度は国内で21名，海外で8名の研究発表を助成した。また，社会システム・マネジメント専攻では，2007年度から開始した「社会人のための博士後期課程早期修了プログラム」履修生として社会人を継続的に受け入れており，2011年度も1名が修了した。さらに，社会システム工学専攻，経営・政策科学専攻，さらには社会工学類の一部の講義では，教育の高度化

を目指し、グループ作業、フィールドワーク、インターンシップなどを積極的に取り入れている。

なお、社会工学同窓会、社工都市計画同窓会を通すなど、卒業生との交流も本学では最も活発である。特に、2008年から社会工学類の優秀な卒業生3名に与えられる倉谷賞は社会工学類生の研究活動を大いに鼓舞している。

(3) 国際交流などの社会貢献

教育や研究以外にも、様々な学内外貢献を行っている。本学国際交流協定においては、本域として責任を持っているものとして、清華大学（中国）、台北大学（台湾）、漢陽大学校（韓国）、南オーストラリア大学、南オーストラリア・フリンダース大学、アデレード大学（以上オーストラリア）、ウィーン経済・経営大学（オーストリア）との協定であり、中国科学研究院（中国）との協定に参加している。これらの大学・研究機関とは、若干名ながら研究者および学生の交流・交換が続いている。外国人研究者の受け入れと教員の海外派遣は極めて多く、国際的な研究交流が盛んであることを示している。

さらに、実学も重視し自治体や企業などとの連携も含め多様な社会貢献、地域貢献を行っている。たとえば、2011年3月の東日本大震災を受け本学が茨城県内5市町村と震災復興に関する協定を締結した。この際には、本域教員が中心的役割を果たした。また、多数の出張講義・公開講座、本学主催の高大連携シンポジウムの開催など本学社会連携活動へ大いに貢献した。

(4) 組織

本域教員の流動性が高く、それに伴い審査付学术论文を重視する採用・昇任人事が経常的に行われてきた。しかし、昨今の採用人事制度の変更に伴い、優秀な人材を確保・維持していくためには、組織力のより一層の強化が求められる。

本域教員は、様々な研究分野・職歴・国籍をもつ。多様な教員間の活発な交流が、相乗効果により研究成果の向上をもたらしている。本域の更なる成長のためには、研究・教育意欲を刺激するような環境と開かれた運営体制を整備し、中長期的視野に立ち有能な人材を確保することが必要である。同時に、研究、教育、学内外の貢献に関して定期的な記録と自己評価・点検により、社会的説明責任を果たさなければならない。昨年度から内容を一新した本報告書が、そのような課題に対応するための資料を提供し、構成員及び関係者の意識向上に貢献できれば幸いである。

2012年8月3日

社会工学域長
社会システム・マネジメント専攻長
大澤 義明

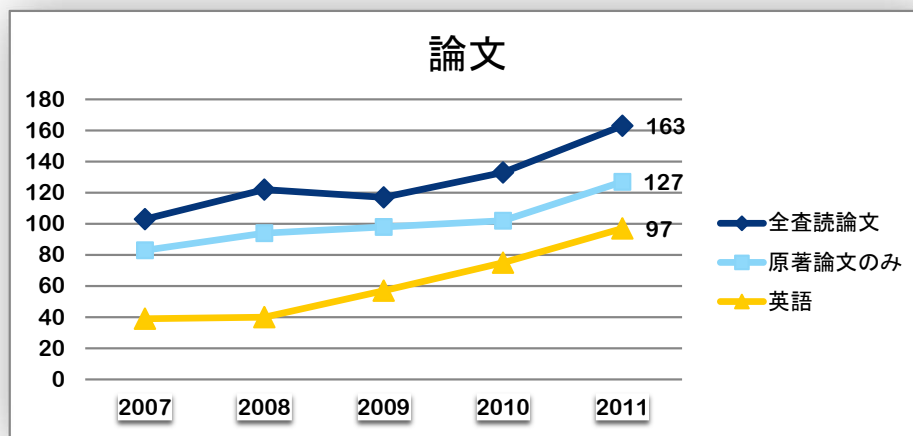
筑波大学リサーチユニット・社会工学域教員代表者（2012/7/31 現在）

課題名（領域）	概要	代表者
サービス組織の経営学 （人社系）	サービス提供を本業とする経営組織体の生成・成長・成功メカニズムを、戦略・組織・IT・顧客の組織化・業績評価という 5 つの焦点から実証的に研究する。	岡田 幸彦
コンパクトシティ （理工系）	人口減少や環境問題への対応に向け、都市をコンパクト化することの必要性が広く認知されるようになってきた。本研究グループはその研究上、および実務上の課題に応えるため、本学内外の幅広い専門家より構成されている。	谷口 守
サービス資源の最適配分 （理工系）	最適化モデル、確率モデル等の数理モデルを用いて、サービス産業および自治体における、人・モノ・情報等のサービス資源の最適な配分方法に関する研究を行い、サービス事業体が提供するサービスの品質とその効率性の向上を目指す。	吉瀬 章子
都市の OR （複合系）	本ユニットは、都市のORを研究領域とする。都市現象に関する諸課題など社会的・地球規模的な課題解決にオペレーションズ・リサーチ手法を駆使して取り組む研究者に対し、研究発表の機会や議論の場を提供するのである。	大澤 義明
空間情報科学 （複合系）	地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術を戦略的に活用していくことを目指して、応用志向型、かつ科学的知見の政策立案への戦略的活用を意図した空間解析手法の高度化の追求のための研究活動を行う。	鈴木 勉
医療サービス科学 （複合系）	本学附属病院とシステム情報系の連携により、患者と病院スタッフの満足度の実証的研究を基に、数理最適化 アルゴリズムを適用して、入院患者に手術室と空き病床を割当てるソフトウェアシステムを研究開発する。	高木 英明

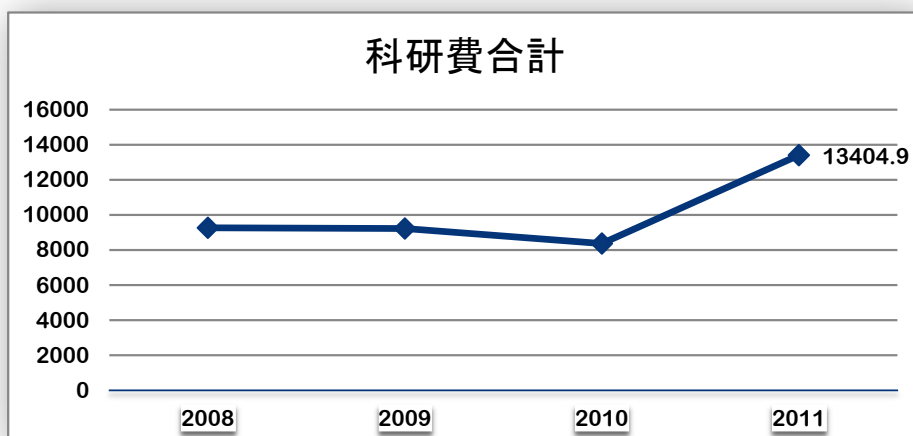
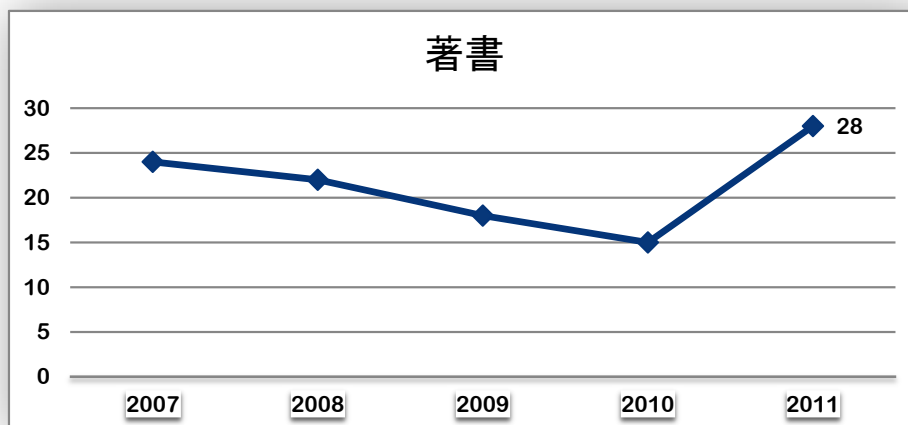
筑波大学システム情報系リサーチグループ・社会工学域教員（2012/7/31 現在）

課題名	概要	社会工学域メンバー
公共政策と経済分析 （人社系）	少子高齢化社会についての総合的な研究を行い，広い視野から政策提案のできる研究をめざす．とりわけ，メンバーの専門性を活かし，雇用制度のあり方，医療や年金といった福祉政策，経済成長戦略を中心に分析する．	江口匡太（代表者） 大貫祐二，桃田朗， 桑原史郎
ミクロ計量経済学的分析手法の開発と応用 （人社系）	大規模調査から得られた横断面データおよびパネルデータを用いて個人や家計の選好パラメータを推定する新たなミクロ計量経済学的手法の開発と，日本のデータを用いた実証分析を行うことを目的とする．	大久保正勝（代表者） 浅野哲
社会における人間の心的内部構造－理論・実験・シミュレーションによる研究 （人社系）	プレイヤー達がどのようにして経験・記憶から社会構造を理解するかは，ゲーム理論と経済学の基本問題である．この基本問題を理論・実験・シミュレーションなどの様々な観点から研究するのが，本プロジェクトの目的である．	金子守（代表者） 秋山英三，スティーブ ターンプル，渡邊直樹，石川竜一郎
地理情報の解析と視覚化 （理工系）	数理科学，都市計画，地理情報システムの専門家が計算幾何学，まちづくり，データマイニング，最適化などの多様な切り口から地理情報について横断的に情報交換し，研究手法の社会への普及を図る．	大澤義明（代表者） 山本芳嗣，吉瀬章子， 繁野麻衣子，八森正泰，堤盛人，竹原浩太
半導体・FPD 製造の総合設備効率を革新する多変量統計品質解析 （理工系）	半導体産業を念頭に，複雑化した生産システムの統合的オペレーション管理方法を構築し，業務管理システムとして実装を目指す．実践的に効果を検証し，仮想工場を介した業務サービス事業の基盤づくりを目指す．	住田潮（代表者） 有馬澄佳
低成長時代における縮小型都市計画学の構築 （理工系）	既存都市の縮小を図りながら，如何に持続可能かつ魅力的で快適な都市空間を創造するかに関する研究を行うものであり，社会工学域に所属する都市計画・環境科学関係の研究者により構成されている．	藤川昌樹（代表者） 吉野邦彦，有田智一， 太田充，村上暁信， 藤井さやか，松原康介，甲斐田直子
組み合わせ理論の符号やセキュリティ問題への応用 （理工系）	有限体や有限幾何を用いて，各種の組合せ的デザインの構成をし，符号，暗号・認証システム，あるいは実験のための計画などを作る研究をおこなう．	藤原良叔（代表者） ミャオイン

東日本大震災被災地における都市リスク評価 (理工系)	都市に潜む様々なリスクを評価し、実質的な都市防災に資することを目的として活動している。そのために、学術的な調査研究のみならず、自治体・住民・地域の防災活動や防災教育に関する支援も行う。	村尾修（代表者） 糸井川栄一，鈴木勉， 梅本通孝，谷口綾子
顧客志向ビジネス・イノベーションの研究 (複合系)	数理科学・経営学・実践知識の融合により，顧客志向・従業員満足に基づくビジネス・イノベーションを実現する「つくば発サービス科学」を確立し，スマート社会に貢献する研究・人材育成を推進する。	張勇兵（代表者） 高木英明，岡田幸彦， 倉田久，生稲史彦
国際金融システム・政策協調の将来を考える (複合系)	国際経済の分野(例 経済統合，リスク・シェアリング，貧困問題で，世界水準の研究活動を積極的に展開することにより，将来的には国内・アジア地域の一大研究拠点となることを目標とする。	永易淳（代表者） 木島陽子
経済エージェントの限定合理性が社会経済システムに及ぼす影響 (複合系)	経済エージェントの限定合理性が様々な社会的・経済システムに及ぼす影響を，心理・社会実験，調査，シミュレーションなどの多面的なアプローチから明らかにし，従来の研究枠組みを超えた新しい知見や，方法論を構築する。	石井健一（代表者） 中村豊，橋本昭洋， 上市秀雄
持続可能な社会構築のための政策 (複合系)	東日本大震災，ポスト京都等の様々な難題のもと，持続可能な社会構築のための政策設計は喫緊の課題である。当政策には，単なる経済効率性や環境保全の観点を超えた視点が求められている。環境経済学，都市計画，社会基盤計画，交通計画等の立場から，持続可能な社会を実現するための政策について分析を行う。	奥島真一郎（代表者） 石田東生，谷口守， 岡本直久
マネジメント・サイエンス，計量経済学，心理学にわたる共同学際研究 (複合系)	社会システム・マネジメント専攻所属の5人の教員によるマネジメント・サイエンス，計量経済学，心理学を統合した共同学際研究。	金澤雄一郎（代表者） 渡辺真一郎，庄司功， 辻爾志，近藤文代
ソフトコンピューティング (複合系)	ソフトコンピューティング(SC)に基づく知的情報処理に関する研究拠点形成を目指している。2011年度から3年間，日本学術振興会二国間交流事業で採択されているSCと短距離無線通信を用いた地震発生後の人的被害状況の時空間的な把握に関する研究に力を入れている。	イリチュ美佳
エンタテインメントと生体科学 (複合系)	情報科学，生体科学，社会科学の融合により，遊び・学び・健康維持などの生活の質を高めるエンタテインメントの構成法を明らかにする。	原田信行



教員の過去5年間の論文数（他大学に在籍中の論文も含む）



単位は万円、直接＋間接経費総額、代表者が社シマ教員

II. 教員一覽

教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
秋山英三	社会システム工学	力学系としてのゲームの研究
浅野 哲	計量経済学	ミクロ経済学的分析手法の開発と応用
有田智一	都市計画、社会システム工学	産業集積、都市・地域政策、都市計画制度
石田東生	都市計画、運輸交通・サービス、道路輸送・サービス	公共交通の成立性、自動車保有と世帯交通活動、社会資本整備と合意形成
糸井川栄一	都市リスク管理	都市防災に関する数理化と都市の災害脆弱性評価
大澤義明	都市計画、社会システム工学、経済政策（含経済事情）	都市計画、社会工学、地域科学
金澤雄一郎	データ科学・統計科学	離散選択モデル、共分散構造分析、ノンパラメトリック密度関数・回帰関数推定論、欠損値のある場合の統計的解析、生存時間解析
金子守	経済理論	住宅市場の理論的・実証的研究、ゲーム論的決定のための推論と認識論理、帰納的ゲーム理論：個人経験と社会観の形成、未来地球のための社会経済思想
岸本一男	社会システム工学、応用数理、オペレーションズリサーチ	デジタル幾何、立地問題と合理的選挙、株価変動解析、フラクタルの解析
庄司功	統計科学、統計学、数値解析、近似法	ダイナミカルシステムモデルの統計的推論
鈴木勉	立地分析、計画リスク、リスク管理型都市公共サービス	立地・輸送におけるリスク分析、都市インフラストラクチャーの維持管理、防災・防犯・救急医療システム評価、都市成長と計画における不確実性

住田潮	経営工学、オペレーションズリサーチ、マーケティング、物的流通、生産工程、品質管理、情報工学一般	集合値関数の構造解析、情報システムの性能評価、応用確率モデルのビジネス分野への適用
高木英明	情報通信、応用確率過程、サービス・サイエンス	サービス科学、待ち行列理論とその応用、多重サービス高速通信ネットワークの性能評価
谷口守	運輸交通・サービス、環境工学一般、都市計画、土地利用、住居地域計画、住宅問題	社会・交通基盤整備に関する研究、都市の環境に関する研究、都市・地域計画制度に関する研究、都市計画・交通計画・環境計画
張勇兵	分散システム、通信ネットワーク、性能評価	WDM 光通信ネットワークにおけるルーティング方式、移動エージェントによる分散処理システムの構築、移動通信システムにおける周波数資源の最適割り当て方式に関する研究
中村豊	意思決定理論	測定論の基礎、不確実性下の意思決定
橋本昭洋	社会システム工学	社会システム分析、公共部門意思決定、評価・決定方法論、非画一的総合評価
藤川昌樹	建築史、都市計画、日本史	歴史的市街地の保存、前近代東アジアの居住環境史、日本近世都市・住宅の空間構成に関する研究
藤原良叔	数学一般、情報工学基礎理論一般	周波数ホッピング系列、符号と暗号、Galois Field Package の開発、バランスド・アレイの構成法
繆瑩	応用数学、情報工学基礎理論一般	完全差集合族とそのレーダー配列への応用、デジタル指紋符号の構成法および追跡アルゴリズムの開発、ベイジアンネットワークの遺伝子情報解析への適用、組合せデザイン理論を用いた情報通信・情報セキュリティのためのシークエンス構成問題
山本芳嗣	オペレーションズリサーチ、最適化	大域的最適化、組合せ最適化、アルゴリズムの開発

吉瀬章子	最適化・オペレーションズ リサーチ	錐計画問題に対するアルゴリズムの開発と応用、相補性問題に対する数値的アルゴリズムの開発、データ解析、サービス科学における最適化モデルの適用
吉野邦彦	リモートセンシング一般、 環境動態分析、環境影響評価（含放射生物学）、環境保全、環境工学一般、自然保護、水質汚濁、社会システム工学、農業土木	デジタル画像処理による植物群落草冠の立体構造のモデル化、生物多様性保全のための環境政策に関する研究、土地被覆・土地利用変化が地域生態系に及ぼす影響に関する研究、植物群集の分光反射特性に関する研究ーリモートセンシングを用いた詳細植生図作成のための基礎的研究、衛星リモートセンシングデータを用いた東南アジアにおける熱帯泥炭湿地林の環境評価、リモートセンシングによる湿原の詳細植生図の作成と景観生態学的分析
渡邊真一郎	組織行動論	職務満足と生活満足の関係、ワーク・ファミリー間相互作用の比較文化的研究、個人ー仕事環境間のダイナミック相互作用

准教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
生稻 史彦	イノベーション・マネジメント、技術マネジメント、製品開発論	コンテンツ産業及びサービス産業における開発マネジメント、技術経営、イノベーション・マネジメント
石井健一	社会学（含社会福祉関係）、社会システム工学、教育・社会系心理学	キャラクターの消費行動、海外における日本アニメの受容、インターネット、携帯電話など通信メディアの利用、日本メディアの海外における普及と消費行動
江口匡太	労働経済学	雇用契約の理論
大久保正勝	経済統計学	異時点間の消費決定に関する実証研究
太田充	地域科学、都市経済学、都市計画	通信技術革新と都市空間構造の自己組織化
大貫裕二	経済統計学	国民経済計算推計システムに関する研究、統計調査方法の改善に関する研究
岡田幸彦	会計学、経営学、商学	サービス原価企画の理論的・実証的研究、サービス科学研究教育のための“知の体系”の創造
岡本直久	交通計画、観光計画、交通工学・国土計画、社会資本投資効果分析	道路パフォーマンス指標の開発、コンテナ港湾機能配分に関する研究、観光交通の需要分析
奥島真一郎	環境経済学、政策分析	分解分析手法の開発、モラルモチベーションと環境政策
木島陽子	開発経済学	発展途上国における貧困がいかにして削減されるかを現地調査により収集した家計データを用いて実証分析を行う
倉田久	経営学、経営工学、商学	サプライチェーン・マネジメントの視点からオペレーションとマーケティングの連携の研究
佐藤(イリチュ)美佳	多次元データ解析、統計科学	類似度の潜在構造モデルに基づくクラスタリング、ファジィクラスタリング、多相・多元データ理論
繁野麻衣子	オペレーションズリサーチ、社会システム工学	組合せ最適化、ネットワーク最適化のアルゴリズム開発

高橋正文	派生証券評価、金融リスク管理	デリバティブズ等の確率モデル評価、証券価格変動解析、市場及び信用リスクモデルの評価・管理手法の研究
TURNBULL, Stephen John	ゲーム論、情報経済、実験経済	オープンソース及びフリーソフトウェアのミクロ経済学的分析、コンピュータネットワークの経済学的分析
辻爾志	ファイナンス、応用計量経済学、金融工学	インベストメント、アセット・プライシング、コーポレート・ファイナンス、行動ファイナンス、フィナンシャル・リスク・マネジメント
堤盛人	土木計画学、応用空間統計学	不動産価格・賃料、空間的自己相関、空間統計学、空間計量経済学、応用都市経済モデル、社会資本ストック推計、プロジェクトファイナンス、建設関連業、無電中化
永易淳	国際金融、金融ファイナンス、計量経済	金融・為替政策の分析、経済・金融危機、金融資産価格変動の分析と予測、投資家の行動分析
八森正泰	数学一般、離散数学、組合せ論	トポロジー的組合せ論と組合せ論におけるトポロジー的手法、組合せ的構造に関する研究
原田信行	経済政策（含経済事情）、経済統計学	中小企業の動態および政策に関する理論・実証分析、日本経済・産業の実証分析、計量経済学
村尾修	防災空間論、都市デザイン、都市復興計画	都市の被害想定と危険度、防災面から見た都市デザイン計画、建物の危険性評価
村上暁信	緑地計画学、都市環境計画	ランドスケープ計画、都市と農村の一体的整備手法、緑地の環境保全機能、都市化と環境変化、気候風土と景観
桃田朗	経済理論	人口問題を考慮したマクロ経済理論の構築、およびその応用可能性に関する研究
渡辺俊	建築工学一般、情報システム工学、CAD、CAM、都市計画	ポスト定住化社会における時空を超えたアクティビティの流動化実態に関する実証的研究、拡張現実技術を利用した実空間景観シミュレーションシステムの開発、東アジアの伝統的都市の再開発手法に関する研究、地理情報システムに関する研究、建築 CAD システムに関する研究

渡邊直樹	産業組織論、ゲーム理論	R&D、特許ライセンス、提携形成、交渉、流通などのミクロ経済分析、動学的産業構造の理論・実証分析
------	-------------	--

講師		
氏名	専門分野	研究テーマ
有馬澄佳	生産工学一般	QCDモデルに基づく装置および生産ラインの設計・運用方法
石川竜一郎	経済理論	社会構造の認識の形成とその変遷、情報の社会的価値、家計内在配分に出産が与える影響
上市秀雄	意思決定論、認知心理学、社会心理学	犯罪不安に関する認知・感情プロセスのモデル化とその応用、慢性ストレスがヒトの生理心理状態に与える影響とその対処法、意思決定における後悔の時間的变化と回復方法、進路意思決定における認知・感情過程のモデル化、逸脱行動が生起するプロセスと矯正方法に関する研究、環境ホルモンのリスク認知プロセス
梅本 通孝	都市・地域の低頻度リスク対策	住民避難、災害時情報伝達、施設周辺地域の原子力災害対策、災害リスク認知
桑原史郎	経済成長理論、経済政策	貧富に二極化する世界の経済動学を内生的成長理論を用いて理論的に解明
近藤文代	時系列解析、統計解析、マーケティングデータ分析	日次POSデータの価格反応モデル分析
谷口綾子	都市交通計画、態度・行動変容研究、リスク・コミュニケーション	都市交通計画における態度・行動変容研究、モビリティ・マネジメント、リスクコミュニケーション
藤井さやか	都市計画、土地利用、住居地域計画、住宅問題	計画的住宅地の持続可能性に関する研究、ICTを活用したまちづくり・地域活性化に関する研究、市民・事業者による多様な都市計画提案を活用した持続可能な空間形成手法に関する研究、地区まちづくりルールを活用と運用実態に関する研究、住民組織による居住環境管理の実態と支援方策に関する研究

助教		
氏名	専門分野	研究テーマ
甲斐田直子	環境経済、政策学	環境保全行動と社会システム分析、国際協力プロジェクト評価
竹原浩太	金融工学、数理ファイナンス、応用確率解析	金融工学、数理ファイナンス、金融派生証券（デリバティブ）、ファイナンスにおける解析的／数値的手法、確率解析
松原康介	都市計画	中東・北アフリカ地域の都市保全

III. 教員別の教育研究業績

氏 名	秋山 英三	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	進化ゲーム理論、エージェント・ベースド・シミュレーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目

学類

社会工学実習／プログラミング実習／進化ゲーム理論／社会工学における戦略的思考

大学院前期課程

応用ゲーム理論

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人／社会システム工学専攻 6人／

社会システム・マネジメント専攻 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 基盤研究（C）「集団間の競争とゲームの構造がリーダーシップの進化に与える影響の分析」（代表）
- 日本学術振興会 二国間交流事業共同研究 フランスとの共同研究(CNRS)「状況認識と行動学習の相互作用に関する2国間比較」（代表）
- 基盤研究（A）「帰納的ゲーム論：信念・知識の起源と進化、その限定性と行動・意志決定との相互関係」（分担）

◆ 著書・論文等：

- Yuji Aruka and Eizo Akiyama, ``Non-Self-Averaging of a Two-Person Game with Only Positive Spillover: A New Formulation of Avatamsaka's Dilemma,`` in Complexities of Production and Interacting Human Behaviour, Chapter 12, 233-261, (2011).
- 秋山英三, 「進化概念の徹底理解」「進化ゲーム理論」, 『50のキーワードで読み解く 経済学教室－社会経済物理学とは何か?－』（青木正直, 有賀裕二, 吉川洋, 青山秀明監修）, 東京図書, (2011).
- 秋山英三, ``社会構造・コーディネーション形態の進化の分析－進化ゲーム論

の視点とマルチ・エージェント・シミュレーション―」日本シミュレーション & ゲーミング学会誌 21(1), 27-38 (2011).

- Suzuki, S., Niki, K., Fujisaki, S. & Akiyama, E., ``Neural basis of conditional cooperation,`` Social Cognitive and Affective Neurosci 6(3), 228-347 (2011).
- 岩田学, 秋山英三, “相手の「協力度」を考慮する戦略とネットワーク上での協力の進化”, コンピュータソフトウェア(日本ソフトウェア科学会論文誌) 28, 103-115, (2011).
- Eizo Akiyama, ``Evolution of Social Hierarchy in 2x2 Games`` Proceedings of SICE, IEEE Xplore, 1192 - 1195, (2011).
- 岩田学, 秋山英三, ``協力度を考慮する戦略の進化にネットワーク構造が与える影響,`` The Proceedings of the Joint Agent Workshop (JAWS 2011), 8 pages (2011), USB メモリによる配布.
- 森田将和, 秋山英三, ``Arifovic(1996)モデルの拡張と重複多世代モデルの応用,`` The Proceedings of the Joint Agent Workshop (JAWS 2011), 5 pages (2011), USB メモリによる配布.
- 米納弘渡, 秋山英三 “ネットワーク型囚人のジレンマにおける対戦相手の選択——被験者実験によるアプローチ”, 日本ソフトウェア科学会ネットワークが創発する知能研究会(JWEIN11)講演論文集, 91-95 (2011).

◆ 学会発表等：

- ``Evolution of Social Hierarchy in 2x2 Games`` SICE Annual Conference 2011, September 13-18, 2011, Waseda University, Tokyo, Japan.
- “On Experimental Asset Market” (with 石川竜一郎, 花木信行), 関東学院大学セミナー, 2012 年 03 月 16 日, 関東学院大学.
- “On Experimental Asset Market (with Hanaki, N. and Ishikawa, R.),” One day project workshop. Co-organized by JSPS-CNRS project “Comparative analyses of interplays between cognition and learning” and JSPS-ANR project “Behavioral and cognitive foundations for agent-based models”, 2012 年 01 月 19 日, Kansai University, Osaka, JAPAN.

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

キャリア支援担当教員会議 委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- 学類 就職委員（委員長）
- 大学院三専攻合同 就職委員（委員長）
- 2011/7/24 筑波大学大学説明会 模擬授業
- 2011/5/21 つくば秀英高等学校 高大連携 模擬授業

4. 学外の社会貢献

- ネットワークが創発する知能研究会, 2011 プログラム委員
- 合同エージェントワークショップ&シンポジウム 2012 プログラム委員

氏 名	浅野 哲	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 人文社会科学研究科経済学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類	兼	社会学類
研究分野	計量経済学、ミクロ計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 社会工学類、社会学類 「計量経済学」
 - 社会工学類 「線形代数 II」、「プログラミング実習 II」
 - 社会システム工学専攻、人文社会科学研究科経済学専攻 「計量経済学」
 - 経営・政策科学専攻 「ファイナンス：理論と実践」
- ◆ 指導学生数：博士 1 名、修士 2 名、学類 3 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科研費 基盤研究(C) 「家計消費における規模の経済の推定：全国消費実態調査データの分析」
- ◆ 著書・論文等：
 - 「ミクロ経済学における消費者需要理論の実証分析」経済セミナー2011 年, No. 659, pp. 41-46
- ◆ 学会発表等：
 - 2011 年度日本経済学会春季大会（熊本学院大学）コメンテーター
 - Beppu, S. ,& M.Hayashi “Should Japanese Tax System be More Progressive?”
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 経営・政策専攻長、システム情報工学研究科運営委員、システム情報系運営委員、システム情報系教員評価委員、第三学群運営委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学関連 3 専攻運営委員、大学院カリキュラム委員

4. 学外の社会貢献



氏 名	有田 智一	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	産業集積，都市・地域政策，都市計画制度		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：該当なし（2011 年度一杯海外長期出張のため）
- ◆ 指導学生数： 該当なし（2011 年度一杯海外長期出張のため）

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金 基盤研究 B「都市プランナーの職能・専門性の変容と再構築に関する国際比較研究」、（研究代表者）

科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究「建築許可制導入を中心とした法制度改正を見据えた建築審査会のあり方に関する研究」、（研究代表者）

科学研究費補助金 基盤研究 C「協調・契約型都市再生手法に関する日独比較研究」、（研究分担者）
- ◆ 著書・論文等：
 - ・有田智一、「UR 賃貸住宅団地の空室状況と持続可能性の課題、『計画的住宅地は持続可能か？（2011 年度日本建築学会持続可能な都市住宅地を実現する建築社会システムのあり方特別研究委員会）』2011、pp35-38.
 - ・米野史健、木内望、有田智一、「米国の条件付特定用途許可制度における審査の基準と手続の実態」、『建築法制部門研究協議会：裁量性基準の可能性－協議調整ルールにおける審査基準のあり方－日本建築学会建築法制委員会協議調整型ルール検討小委員会』、2011、pp76－81.
 - ・米野史健、有田智一、「米国の条件付特定用途許可制度における審査の実態」、『建築社会システムのあり方特別研究委員会報告書』、日本建築学会、2012、pp94-97.
 - ・有田智一、「持続可能な市街地マネジメントと自治体プランナーの役割－ロンドンの事例から」、『建築社会システムのあり方特別研究委員会報告書』、日本建築学会、2012、pp98-101.
- ◆ 学会発表等：該当なし
- ◆ その他：該当なし

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：該当なし（2011 年度一杯海外長期出張のため）
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：該当なし（2011 年度一杯海外長期出張のため）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 該当なし（2011 年度一杯海外長期出張のため）

氏 名	有馬 澄佳	職 名	講師
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻		専任
	経営・政策科学専攻		専任
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	生産システム工学、技術経営		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類

プログラミング実習、生産・品質管理、マネジメント実習、経営工学基礎演習、
問題発見と解決、経営の科学 III

大学院博士前期課程

オペレーション管理

社会システム工学特別演習 I および II, 社会システム工学特別研究

経営・政策科学特別演習 I および II, 経営・政策科学特別研究

社会システム・マネジメント特別演習 I および II（後期）

社会システム・マネジメント特別研究（後期）

◆ 指導学生数：

学類 4 年生 3 人

博士前期（修士） 2 人＋研究生 2 名

◆ その他

筑波大学産学連携推進プロジェクト（アントレプレナーシップおよび知的財産に関する教育支援プロジェクト）「日本の未来像に根ざした戦略的な知的財産・情報・人材のマネジメントのための実践的なポストMO T教育」（経営・政策科学専攻、実施代表者）（34 万円）

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科研費 若手 (B)「QCDモデルに基づくマルチチャンバ装置および生産ラインの運用・設計方法」（代表）

JST 研究成果展開プログラム A-STEP（探索タイプ）「半導体・液晶製造の良品スループット向上とコスト低減の両立を目指して Q-time 制約の遵守と装置の生産性向上とを同時に実現する実時間最適オペレーション管理手法の研究」（H23. 12-H24. 7）（研究責任者）

◆ 著書・論文等：

S.Arima, U.Sumita, J. Yoshii, “DEVELOPMENT OF SEQUENTIAL ASSOCIATION RULES FOR PREVENTING MINOR-STOPPAGES IN SEMI-CONDUCTOR MANUFACTURING,” Proceedings of International conference on Operations Research and Enterprise Systems, pp.1-8(No.29), 2012.

◆ 学会発表等：

S.Arima, U.Sumita, J. Yoshii, “DEVELOPMENT OF SEQUENTIAL ASSOCIATION RULES FOR PREVENTING MINOR-STOPPAGES IN SEMI-CONDUCTOR MANUFACTURING,” International conference on Operations Research and Enterprise Systems, pp.1-8(No.29), Feb.4-6th, 2012. (Algarve, Portugal)

有馬澄佳「半導体産業のバリュー・チェーンの改革：①DFM に基づく経営 - 技術戦略のライン」, SEMICON Japan 2011 50 周年記念 STS DFM ワークショップ, 2011/12/09.

◆ その他：

特願 2011-146687「最適指標生成装置」(2011 年 6 月 30 日出願)
(発明者：畠(有馬)澄佳、山崎雄大、 出願人：筑波大学)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

学類：広報委員会

大学院：総務委員会、学生相談室、防災隊

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動（役員/委員、論文査読等）、学外から委嘱された委員、兼業など.

社）電子情報技術産業協会 半導体部会 DFM-PM 委員会 客員

論文査読： 電気学会

AEC/APC symposium Asia プログラム委員会・副委員長

氏 名	生稲 史彦	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	MOT (Management of Technology)、イノベーション・マネジメント、製品(サービス)開発マネジメント、コンテンツ産業における企業行動、IT サービスの開発・運営マネジメント		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 マーケティング、マネジメント実習
 - 大学院 マーケティング、経営戦略
- ◆ 指導学生数：
 - 0 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費補助金（若手研究(B)）「アジア圏におけるデジタルコンテンツ市場の成立可能性(課題番号：23730363)」(研究代表者)
 - グローバルビジネスリサーチセンター オンライン・ソフトウェア研究会幹事
 - グローバルビジネスリサーチセンター コンテンツビジネス研究会幹事
 - グローバルビジネスリサーチセンター コンテンツ産業研究会幹事
- ◆ 著書・論文等：
 - 「ソフトウェアの開発スタイルの進化—ネットワーク上の公式組織—」『赤門マネジメントレビュー』10 巻4号, pp. 271-310, 2011 年4月。(藤田英樹と共著)
 - 「消費者インサイトの獲得—あるクリエイティブ・エージェンシーの事例—」『赤門マネジメントレビュー(査読付き研究ノート)』10 巻6号, pp. 441-462, 2011 年6月。(水野誠と共著)
 - 「デジタル化がもたらすコンテンツ業界全体の転換に関する、生産・流通・消費の一貫研究—消費者の生産活動におけるインターネットの役割—」財団法人電気通信普及財団研究成果報告, 2011 年6月。(勝又壮太郎、一小路武安、半澤誠司、和田剛明と共著)
 - 「イノベーションの組織論—組織化プロセスとしてのイノベーションの再定義—」, 2011 年8月。(査読付きプロシーディング: 藤田英樹と共著)

「広告クリエイターはいかにしてインサイトを獲得するか」，2012 年 2 月．（査読付きプロシーディング：水野誠と共著）

「社会的な「学び」としてのイノベーション」，2012 年 2 月．（査読付きプロシーディング：藤田英樹と共著）

『開発生産性のディレンマ—デジタル化時代のイノベーション・パターン—』有斐閣，2012 年 2 月．

◆ 学会発表等：

「消費者インサイトをいかに獲得するか—あるクリエイティブ・エージェンシーの取材に基づく考察」商業学会，2011 年 5 月 29 日．（水野誠と共同発表）

「イノベーションの組織論—組織化プロセスとしてのイノベーションの再定義—」一橋大学イノベーション研究センター『IIR サマースクール 2011』，2011 年 8 月 25 日．（藤田英樹と共同発表）

「広告クリエイターはいかにしてインサイトを獲得するか」北陸先端科学技術大学院大学『第 2 回知識共創フォーラム』，2012 年 3 月 2 日．（水野誠と共同発表）

「社会的な「学び」としてのイノベーション」北陸先端科学技術大学院大学『第 2 回知識共創フォーラム』，2012 年 3 月 2 日．（藤田英樹と共同発表）

◆ その他：

「IT 化の進行によるマネタイズの可能性」広島大学大学院社会科学研究科地域経済・経営シンポジウム第 11 回『日本のコンテンツ産業を考える—文化産業の構造とそれを生み出す土壌とは何か／ゲーム・アニメ・音楽・IT の事例を通じて』，2011 年 11 月 5 日．

「福岡のゲーム産業における産業集積とイノベーションの可能性に関する調査報告書」東京大学 COE ものづくり経営研究センター MMRC Discussion Paper No.379，2012 年 1 月．（和田剛明、一小路武安、半澤誠司、張永祺と共著）

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

なし

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会システム情報研究科 修士論文委員

社会システム情報研究科 施設委員

4. 学外社会貢献

- ◆ 東京大学 経済学部 非常勤講師
- ◆ 文京学院大学 経営学部 非常勤講師

氏 名	石井健一	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	比較文化学類
研究分野	社会心理学、コミュニケーション研究		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 文化行動論/社会調査実習/社会システム分析
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 3人／経営政策科学専攻 2人/
社会システム・マネジメント専攻 1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費(B) 「日中の相互国家イメージと「国家ブランディング」の可能性—中国と日本での実証研究」(研究代表)
- ◆ 著書・論文等：
中国のマイクロブログにおける情報伝達の特徴—Twitter 日本人利用者との比較、情報通信学会誌、29(4)、47-59、2012年(張永祺と共著)
「強いつながり」と「弱いつながり」のSNS—個人情報の開示と対人関係の比較、情報通信学会誌、29(3)、25-36、2011年.
韓国ドラマ視聴の要因分析—対外意識とコンテンツ利用の関連 Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series, no.1282
- ◆ 学会発表等：
情報通信学会、日中社会学会
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
学生支援室室員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等)：
大学院修士論文委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日中社会学会理事

氏 名	石川竜一郎	職 名	講師
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	ゲーム理論・情報経済学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 微積分基礎・情報経済学・経済学入門 II・プログラミング実習

大学院 ミクロエコノミックス

◆ 指導学生数：

社会工学類 4名

社会システム・マネジメント専攻 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 若手研究 (B)「意思決定における高次認識の役割：帰納的アプローチ」、2011 年－2013 年、総額：3,760 千円、研究代表者.
2. 基盤研究 (A)「帰納的ゲーム理論：信念・知識の起源と進化、その限定性と意思決定・行動との相互関連」、2009 年－2013 年、総額：39,650 千円、研究分担者.
3. 日本経済研究センター研究奨励金「資産価格バブル発生メカニズムの解明」、2011 年、総額 1,000 千円、研究代表者.
4. 平成 23 年度 二国間交流事業共同研究(日仏) フランス国立科学研究センター(CNRS)、「状況認識と行動学習の相互作用に関する 2 国間比較」、2011 年－2013 年、研究分担者.
5. 平成 23 年度 二国間交流事業共同研究(日仏) フランス国立研究機構(ANR)、「エージェントシミュレーション研究に関する認識論的基礎付け」、2011 年－2014 年、研究分担者.

◆ 著書・論文等：

1. How does childbirth alter intrahousehold resource allocation?: Evidence from Japan, with T. Fujii, *Oxford Bulletin of Economics and Statistics*, forthcoming.
2. Inductive game theory: A simulation study of learning a social situation, with E. Akiyama, M. Kaneko, and J.J. Kline, H. Hanappi (ed.) *Game Theory*, InTech, forthcoming.
3. Quasi-option value under strategic interactions, with T. Fujii, *Resource and*

Energy Economics, Vol. 34, 36-54, 2012.

4. Belief revision for inductive game theory, with K. Hasebe, *9th European workshop on Multi-Agent Systems* (EUMAS 2011), 15 pages, 2011. (Selected Paper)
5. Difference between AFHH and DP option values under strategic interactions, with T. Fujii, In *12th International Conference on Global Business and Economic Development* (SGBED), pp. 1913-1918, 2011. (Best Paper Awards)
6. A note on separability and intra-household resource allocation in a collective household model, with T. Fujii, *SMU Economics & Statistics Working Paper Series*, No. 06-2012, 2012. (Under review)
7. Arrow-Fisher-Hanemann-Henry and Dixit-Pindyck option values under strategic interactions, with T. Fujii, *SMU Economics & Statistics Working Paper Series*, No. 13-2011, 2011. (Under review)

◆ 学会発表等：

特になし

◆ その他：

1. 愛について語るときに経済学者の語ること：教養としてのゲーム理論、経済セミナー8・9月号、日本評論社、2011年。
2. Selected Paper： *9th European workshop on Multi-Agent Systems* (EUMAS 2011), 2011.
3. Best Paper Award: *12th International Conference on Global Business and Economic Development* (SGBED), 2011.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

1. 筑波大学オープンキャンパス模擬講義（2009年、2011年）
2. 竜ヶ崎第一高等学校出張模擬講義、2011年9月
3. 竜ヶ崎第一高等学校出張講義、2011年9月

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

SSE： 修士論文委員会

社会工学類：クラス担任（3年生）、広報委員

4. 学外の社会貢献

◆ 特になし

氏 名	石田東生	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 国際総合学類	兼	社会工学類
研究分野			

1. 教育

◆ 担当授業科目：

◆ 指導学生数：

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

◆ 著書・論文等：

◆ 学会発表等：

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

4. 学外の社会貢献

◆

氏 名	糸井川 栄一	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 社会システム・マネジメント専攻	専任 兼任	
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 社会システム工学専攻 経営・政策科学専攻	専任 兼任 兼任	
担当学類	専 社会工学類	兼	なし
研究分野	都市リスク管理、地域安全計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 微積分 II／都市計画実習／都市防災計画／暮らしのリスクと安心・安全な社会形成／都市計画事例講義および演習

大学院前期課程 都市リスク管理特論／都市リスク分析演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人／リスク工学専攻前期課程 3人／社会システム工学専攻 1人／
リスク工学専攻後期課程 3人／

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金 基盤研究(C) 「地震火災時の人的被害を考慮した消防運用戦略に関する数理的研究」(代表)

◆ 著書・論文等：

(1) 本田航・糸井川栄一・梅本通孝(2011)：「信頼性解析技法を用いた消防活動時の事故未然防止に関する研究—残火処理を対象に—」, 火災学会論文集, 日本火災学会, 第61巻 第1号, pp. 1-10

(2) 西羅 憲作・糸井川 栄一・梅本 通孝(2011)：「小学校教員の地震防災教育に対する内発的動機づけと地震防災教材の活用可能性に関する研究」, 地域安全学会論文集, 地域安全学会, No. 15, pp. 415-425

(3) 林 恵子・糸井川 栄一・梅本 通孝(2011)：「豪雨による地下駅浸水時の避難安全性評価」, 地域安全学会論文集, 地域安全学会, No. 15, pp. 427-435

(4) 八木下 沙織・梅本 通孝・糸井川 栄一(2011)：「住宅用火災警報器の設置促進に関する研究—茨城県下の4市を対象として—」, 地域安全学会論文集, 地域安全学会, No. 15, pp. 453-462

(5) 岸井隆幸・糸井川栄一・羽藤英二(2011)：都市計画学会第1次調査団報告, 「都市計画

ー東日本大震災 緊急特集号」, 291 号

◆ 学会発表等：

(1) 天笠雅章・糸井川 栄一(2011)：「東北地方太平洋沖地震後の津波に起因した宮城県石巻市門脇町における火災事例研究」, 地域安全学会梗概集, 地域安全学会, No. 29, pp. 25-28

◆ その他：

なし

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

システム情報系研究者倫理検討委員会／システム情報系技術職員委員会

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類 施設委員会

リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会委員長／GP アクション委員会委員／大塚キャンパス対策委員会委員／施設委員会委員長／インターンシップ担当

4. 学外の社会貢献

◆ (1) 日本都市計画学会 理事／学会賞審査委員会 委員／四川大地震復旧・復興支援特別委員会委員

(2) 地域安全学会 理事／研究運営委員会委員長

(3) 日本建築学会 防火本委員会 委員／地震火災総合対策小委員会委員・幹事／都市防災マネジメント小委員会委員・幹事

(4) 国土交通省 「建築防火基準委員会」 委員(2011)

(5) 独立行政法人 科学技術振興機構 「科学技術戦略推進費審査作業部会」 委員(2011)

(6) 独立行政法人建築研究所 客員研究員 (2008～)

(7) 損害保険料率算出機構 「地震火災の延焼危険評価手法の高度化」 委員会委員(2011)

(8) 東京都都市整備局 「東京都地域危険度測定調査委員会」 委員(2010～)／「避難場所調査検討委員会」 委員(2010～)

(9) 東京消防庁 第20期火災予防審議会 委員 (2011)

(10) 茨城県 「茨城県地域防災計画改定委員会」 委員(2011)

(11) 茨城県都市計画協会 「復興まちづくり講演会 特別講演」 講師(2012. 2)

(12) 土浦市 「土浦市消防本部新庁舎検討委員会」 委員(2011)

(13) 公益財団法人 東京防災救急協会 調査研究専門委員 (2004～)

(14) 国際航業株式会社 「都市防火区画の基準に関する検討会」 委員(2011)／「東京都の地震時における地域別延焼危険度測定(第8回)の委託調査研究委員会 委員」委員(2011)

氏 名	上市 秀雄	職 名	講師
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻 経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	意思決定論，認知心理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 経済行動論／社会経済システム情報実習／社会工学における戦略的思考：理論，実験，および演習／フレッシュマン・セミナー

大学院 消費者心理分析
- ◆ 指導学生数：

社会工学類 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金基盤研究（A）「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」（研究分担者）

科学研究費補助金基盤研究（C）「慢性ストレスがヒトの生理心理状態に与える影響とその対処法」（研究分担者）
- ◆ 著書・論文等：

Ueichi, H., Kuriyama, N., Saito, T., & Kusumi, T. (2012). Effects of the Deliberate Decision-making Style on Career Decision-making Processes and Coping with Regret after High School. *Psychologia: An International Journal of Psychological Sciences*, 55, 28-44.

上市秀雄（2011）. 裁判員制度と心理学（10章） 小俣謙二，島田貴仁（編著） 「犯罪と市民の心理学：犯罪リスクに社会はどうかかわるか」 北大路書房，pp. 214-231.
- ◆ 学会発表等：

上市秀雄（2011）. 後悔予期尺度作成の試み. 日本心理学会第75回大会発表論文集，859.
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

学類就職委員，学類オリエンテーション委員

4. 学外社会貢献



氏 名	梅本 通孝	職 名	講師
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 社会システム・マネジメント専攻	専任 兼担	
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 社会システム工学専攻 経営・政策科学専攻	専任 兼担 兼担	
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	都市地域の低頻度リスク対策		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 社会工学実習／都市計画事例講義および実習／都市地域経済学演習／
都市防災計画／暮らしのリスクと安心・安全な社会形成
大学院前期課程 都市リスクコミュニケーション／都市リスク分析演習／
リスクマネジメント序論

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 若手研究 (B)「市民の災害リスク認知の地理情報化手法の開発と減災対策の実効性向上のための応用」(代表)

◆ 著書・論文等：

八木下沙織，梅本通孝，糸井川栄一：住宅用火災警報器の設置促進に関する研究—茨城県下の4市を対象として—，地域安全学会論文集，No. 15，pp. 453-462，2011.

林恵子，糸井川栄一，梅本通孝：豪雨による地下駅浸水時の避難安全性評価，地域安全学会論文集，No. 15，pp. 427-435，2011.

西羅憲作，糸井川栄一，梅本通孝：小学校教員の地震防災教育に対する内発的動機づけと地震防災教材の活用可能性に関する研究，地域安全学会論文集，No. 15，pp. 415-425，2011.

梅本通孝：県域間に及ぶような長距離避難における住民の避難手段選択に関する研究，都市計画論文集，Vol. 46，No. 2，pp. 131-141，2011.

本田航，糸井川栄一，梅本通孝：信頼性解析技法を用いた消防活動時の事故未然防止に関

する研究—残火処理を対象に—, 日本火災学会論文集, Vol. 61, No. 1, pp. 1-10, 2011.

◆ 学会発表等：

◆ その他：

梅本通孝：原子力防災研究者の自己敗因分析—東京電力福島第一原発事故災害を受けて—, 日本災害情報学会避難研究会, 東京, 2011. 12.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

全学 教育社会連携推進室 室員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

リスク工学専攻 GP 実施委員会 委員

リスク工学専攻 就職委員会 委員長

リスク工学専攻 広報委員会 委員

リスク工学専攻 予算委員会 委員

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動

日本自然災害学会編集委員会 委員

地域安全学会論文集 査読者

◆ 学外から委嘱された委員

茨城県稲敷市都市計画審議会 会長

埼玉県八潮市やしお市民大学大学院 指導者

福島県いわき市復旧・復興計画検討委員会 委員

氏 名	江口 匡太	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 人文社会科学研究所 経済学専攻	専任 兼担	
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻 経営・政策科学専攻 人文社会科学研究所 経済学専攻	専任 専任 兼担	
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	労働経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 経済原論／労働経済学／公共システム演習

大学院前期課程 人的資源管理論
- ◆ 指導学生数：

学類 4名

大学院前期課程 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究（B）「市場経済と法制度の相互関係に基づく雇用法制の研究：解雇法制を中心に」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
 - "Employment Protection Legislation and Cooperation under Relational Contracts," Univ. of Tsukuba, Department of Social Systems and Management, Discussion Paper Series No.1281
 - "Employment Protection and Incentives: Severance Pay vs. Procedural Inconvenience," Univ. of Tsukuba, Department of Social Systems and Management, Discussion Paper Series No.1280.
- ◆ 学会発表等：

"Employment Protection Legislation and Cooperation under Relational Contracts," 単独、International Economic Association、精華大学（中国）
- ◆ その他：
 - 「随想プラザ 採用に学ぶ”形式主義”と組織の硬直性」、単著、「労政時報」第3817号（労務行政）、pp.126-127.
 - 書評：労務行政研究所編「日本人事」（労務行政）、単著、「週刊東洋経済」 2011

年 10 月 15 日号（東洋経済新報社）、p. 117

- 書評：鹿野嘉昭著「藩札の経済学」（東洋経済新報社）、単著、「週刊東洋経済」 2011 年 6 月 4 日号（東洋経済新報社）、p. 114
- 「組織の人事戦略を知る：リーダー・中核職員を伸ばす人事と哲学と戦略」、単著、「月刊 地方自治職員研修」No. 617（2011 年 5 月）、（公職研）、pp. 34-36

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 学類 クラス担任（4 年生）
 - 卒業生連絡委員
 - 学生委員
 - SSM 広報委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 人材サービス産業の近未来を考える会（座長：佐藤博樹東京大学教授）ワーキンググループメンバー

氏 名	大久保 正勝	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻 専任 経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	マクロ経済学、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 マクロ経済学、マクロ計量分析、情報リテラシー演習
大学院 マクロ経済学、特定課題研究
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 1人
大学院 経営政策科学専攻 5人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 若手研究（B）「個票データによる労働所得変動の推定」（研究代表者）
- ◆ 著書・論文等：
Masakatsu Okubo, “Earnings Dynamics and Profile Heterogeneity: Estimates from Japanese Panel Data”, University of Tsukuba Department of Social Systems and Management Discussion Paper Series No.1290
学会発表等：
Masakatsu Okubo, “Earnings Dynamics and Profile Heterogeneity: Estimates from Japanese Panel Data”, 日本経済学会春季大会、熊本学園大学

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
SSM：カリキュラム委員
社会工学類：広報委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動：日本経済学会秋季大会運営委員
- ◆ 論文査読：China Economic Review

氏 名	大澤義明	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻	専任	
	経営・政策科学専攻	専任	
	環境科学専攻	兼任	
担当学類	専 社会工学類		
研究分野	社会工学，都市計画，地域科学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 微積分 I，都市解析，都市構造論，都市計画マスタープラン策定実習

都市計画事例講義および実習，つくばの景観を考える（社会工学類）

都市・地域・環境を探る II（総合科目）

大学院 都市計画における課題と方法，都市地域解析学（社会システム工学，経営政策科学）

立地計画論（環境科学）

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人（1名 倉谷賞）

社会システム工学専攻 4人

社会システムマネジメント専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

[1] 縮小時代における公共施設整備見直し政策の理論化．科学研究費補助金・基盤研究B．（代表者）

[2] 世代間不公平解消のための投票制度改革．科学研究費補助金・萌芽研究．（代表者）

[3] 筑波大学革新的研究等支援プログラム，学生協働・地場連携による筑波大学キャンパス・リノベーションーグリーン・イノベーションとライフ・イノベーションの融合ー．（代表者）

◆ 著書・論文等：

[1] 高森賢司，大澤義明，腰塚武志（2011）：山アテ道路景観の地域比較分析．都市計画論文集，46，pp. 379-384.

[2] 飯田マリ，大澤義明，小林隆史（2011）：2階建てオープンバスから見た都市景観の分析．都市計画論文集，46，pp. 385-390.

[3] 小林隆文，大澤義明（2012）：太陽光発電普及社会にむけた都市空間における建築制

限．環境共生，19，pp. 44-54.

◆ 学会発表等：

[1] Y. Ohsawa(2011)：Spatial tax competition and harmonization. The 100th anniversary of Otaru University of Commerce, (Otaru, Japan).

[2] Y. Ohsawa(2011)：Optimality gap of myopic location methods. The 51st Congress of the European Regional Science Association, (Barcelona, Spain).

[3] 大澤義明(2011)：成熟社会における公共サービス施設の配置．日本オペレーションズ・リサーチ学会サービスサイエンス研究部会，(つくば).

[4] 大澤義明(2012)：筑波大学による茨城県内自治体震災復興支援事業．第 67 回オペレーションズ・リサーチ学会シンポジウム，(横須賀).

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

教育社会連携推進室長

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会システムマネジメント専攻長，社会工学系長，社会工学域長

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動

[1] 応用地域学研究・編集長（応用地域学会）

[2] OR 学会 研究普及委員会・委員（OR 学会）

◆ 自治体委員

[1] 茨城県環境影響評価審査会・委員（茨城県）

[2] 土浦市中心市街地活性化基本計画策定委員会・委員長（土浦市）

[3] 土浦市庁舎建設審議会・会長（土浦市）

[4] つくば市ホテル等建設審議会・会長（つくば市）

[5] 石岡駅橋上化推進検討委員会・会長（石岡市）

[6] 石岡市都市計画審議会・副会長（石岡市）

[7] 守谷市都市計画審議会・副会長（守谷市）

[8] 牛久市都市計画審議会・委員（牛久市）

[9] 北茨城市震災復興計画策定委員会・総合アドバイザー（北茨城市）

[10] 茨城県立土浦第一高等学校評議員（茨城県教育委員会）

[11] 学校法人茗溪学園・評議員（学校法人茗溪学園）

氏 名	太田 充	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	地域科学、都市経済学、都市計画		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 学類 空間と交通の経済学／地域と地域間の経済学／都市地域経済学演習／プログラミング実習／都市構造論／社会基盤と情報ロジスティクス産業／社会工学における戦略的思考：理論、実験、および演習／
大学院前期課程 地域科学
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 3人／社会システム工学専攻 1人/
社会システム・マネジメント専攻 0人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 基盤研究（C）「海外における中間財生産による国内都市空間構造の変化に関する研究」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
大都市圏における近年のテレコミュニティン（在宅勤務）と都市構造の均衡分析、地域学研究、41-1、1-14 ページ（査読付き）
- ◆ 学会発表等：
大都市圏内における企業の分離立地と付け値地代を用いた均衡都市構造分析-都市の構造の動的モデル-、応用地域学会（ARSC）第 26 回研究発表大会、2011/12/04、富山大学
- ◆ その他：
なし

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
なし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類 クラス担任（1年生）、コンピュータ委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動（論文査読等） 日本都市計画学会

氏 名	大貫 裕二	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	経済統計		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 日本経済論/少子・高齢化時代の社会・経済システム/東京の都市学/日本の社会
大学院 地方行財政論/行政と政策決定

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人/経営・政策科学専攻 4人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・国民経済計算推計システムのリノベーションに関して、RAS 法のエージェント・ベース・シミュレーションによる誤差評価について検討した。
- ・東日本大震災への行政の対応及び復興事業のプロジェクト・マネジメントについて経営・政策科学の特定課題研究において学生とともに検討した。

◆ 著書・論文等：

- ・大貫裕二「東日本大震災の復興事業における長期の関係性マネジメントに関する検討」国際 P2M 学会誌, Vol. 6, No. 2, pp. 53-62, 2012/02
- ・大貫裕二、榊俊吾、出口弘「国民経済計算（SNA）推計システムのマイクロ・モジュールによるリノベーション」社会・経済システム, No. 32, pp. 141-148, 2011/10
- ・榊俊吾、大貫裕二、出口弘「マクロ統計による産業構造の捕捉可能性とトランザクションベースエコノミクスへの展開」社会・経済システム, No. 32, pp. 185-198, 2011/10

【国際会議プロシーディングス】

Yuji ONUKI, "Using the Agent Based Models for the development of the algorithm of the iterative proportional fitting procedure Proceedings of The Seventh International Workshop on Agent-based Approaches in Economic and Social Complex Systems, 2012/01

◆ 学会発表等：

- ・大貫裕二「家計調査自動車購入額調査法の改善のためのエージェント・ベース・シミュレーション」社会・経済システム学会 第 30 回大会 報告要旨集, pp. 47-50, 2011/10
- ・大貫裕二「日本の経済計画策定からみた東日本大震災の復興計画」国際 P2M 学会第 12 回秋季研究発表大会予稿集, 2011/09

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学スポーツ・デー委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
修士論文委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 東京工業大学エージェントベース社会システム科学研究センター運営委員

氏 名	岡田 幸彦	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻	専任	
	経営・政策科学専攻	専任	
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	会計学、経営学、サービス科学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 会計学概論／マネジメント実習／サービスの産業と組織

大学院 ビジネスゲーム／財務会計／管理会計／ビジネス戦略：理論と実践／特定課題研究

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／社会システム工学専攻 5人／経営・政策科学専攻 9人／社会システム・マネジメント専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・科学研究費 若手研究 (B) 「実証的研究を中心としたサービス原価企画理論の確立」(代表)
- ・奨学寄附金「医療分野の計量会計研究の推進」(代表)
- ・科学研究費 基盤研究 (A) 「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」(分担)
- ・科学研究費 基盤研究 (A) 「サービスコンテンツの作り込みとその経済的効果の測定・評価に関する学際的研究」(分担)

◆ 著書・論文等：

- ・岡田幸彦・後美帆・阪本勇樹[2011]「次世代型原価情報システムの構想—PSLX準拠00CMの実装可能性に注目して—」『横幹』第5巻第2号、76-82頁。
- ・岡田幸彦[2011]「ABC的原価計算実務への変容過程—日米サービス組織の経験から—」日本会計研究学会スタディグループ『情報ニーズの拡張と管理会計の変容 中間報告書』。
- ・岡田幸彦・佐藤亨[2011]「地方自治体におけるストック情報の役割に関する考察—ナショナル・ミニマムの保障と少子高齢化への対応に注目して—」『會計』第180巻第1号、

88-100 頁。

- ・大雄智・中村亮介・岡田幸彦[2011]「ポイントプログラム会計のフレームワーク」『會計』第 179 巻第 6 号、107-121 頁。
- ・荒井耕・尻無濱芳崇・岡田幸彦[2011]「DPC関連病院における各種業績間の相互関係についての検証—医療法人財務諸表データベースに基づく相関分析—」『企業会計』第 63 巻第 4 号、95-103 頁。

◆ 学会発表等：

- ・(研究発表) 椿茂美・福田祥久・岡田幸彦「グローバル事業の戦略策定における諸問題」2011 年 11 月 29 日。
- ・(オーガナイザ・座長) 岡田幸彦「セッション シナリオ経営による経営高度化」横幹シンポジウム、2011 年 11 月 29 日。
- ・(研究発表) 片岡洋人・岡田幸彦・窪田祐一「ポイント交換プログラムの生成・進化と会計情報」日本会計研究学会、2011 年 9 月 18 日。
- ・(研究発表) 中村亮介・大雄智・岡田幸彦「提携型ポイントプログラム会計の実態分析」日本会計研究学会、2011 年 9 月 18 日。
- ・(研究発表) 中村博之・高橋賢・岡田幸彦ほか「情報ニーズの拡張と管理会計の変容 中間報告」日本会計研究学会、2011 年 9 月 17 日。
- ・(研究発表) 後美帆・岡田幸彦「PSLX準拠00CMにおける払出単価算定モデルの研究開発」日本原価計算研究学会、2011 年 9 月 2 日
- ・(研究発表) Takagi H. A. Yoshise, Y. Okada, H. Kurata, and K. Yamashita, Development Plan of the Optimal Bed Control System for Patients and Staff Satisfaction in the Tsukuba University Hospital, Poster Session, Mayo Clinic Conference, 10-12/8/2011, US.
- ・(研究発表) 片岡洋人・岡田幸彦・窪田祐一「ポイント交換プログラムの生成・進化と会計情報」第 9 回管理会計研究会、2011 年 7 月 10 日。
- ・(研究発表) Watanabe S., Y. Okada, U. Sumita, and R. Hashimoto, A Closer Look at the Underlying Dimensionality of Type-A Personality, Poster Session, Association for Psychological Science 23rd annual convention, 26-29/5/2011, US.
- ・(研究発表) 中村亮介・大雄智・岡田幸彦「提携型ポイントプログラム会計の実態分析」制度会計研究会、2011 年 5 月 15 日。

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

筑波大学附属病院 病床管理 IT 化検討委員
理工学群 広報委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院 新入生オリエンテーション委員長、就職委員、経営・政策 WG 委員、特定課題研究改善 WG 委員

社会工学類 広報委員長、クラス担任（3 年生）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 水戸信用金庫・水戸ホーリーホックなど地域企業との産学共同研究、取組みの新聞報道：
ニッキン（2011 年 11 月 25 日）および茨城新聞（2011 年 11 月 3 日）
- ◆ 筑波大学公開講座「サービスカイゼン研修コース」講師
- ◆ 統計数理研究所 客員准教授
- ◆ 京都大学経営管理大学院などで非常勤講師
- ◆ 日本会計研究学会スタディグループ 構成員

氏 名	岡本直久	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻	専任	
	経営・政策科学専攻	専任	
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	交通、観光、社会資本、プロジェクト評価、港湾		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 交通計画／都市計画マスタープラン策定実習／社会基盤と情報・ロジスティックス産業／情報リテラシー演習／都市構造論／東京の都市学／サービスの産業と組織

大学院前期課程 交通計画論／プロジェクト評価演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人

社会システム工学専攻 3人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(C) 「休日交通の時空間分布推計システムの構築」(代表)

科学研究費 基盤研究(B) 「エクメーネ・リサージェンスの新体系構築」(分担)

受託研究 「複合データによる道路サービス・パフォーマンス情報システムの研究開発」(分担)

◆ 著書・論文等：

著書

- ・ 交通経済ハンドブック：日本交通学会編；共著，2011年10月

査読付論文

- ・ Demand Forecasting for Road Transportation in Japan: Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 9, pp.314-329, 共著(Masafumi MORI, Haruo Ishida, Naohisa Okamoto and Yuuichi MOHRI), 2011年10月
- ・ 国内旅行におけるリピーターの行動特性及び醸成要因に関する研究：土木学会論文集D3（土木計画学）Vol. 67, No. 5（土木計画学研究・論文集 Vol. 28），共著(佐藤友理子，岡本直久)，2011年12月

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
つくばエコシティ推進グループ委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会システム・マネジメント専攻 運営委員、博士論文委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 茨城県公共事業再評価委員会委員：茨城県：委員
- ◆ 京浜港物流高度化推進協議会 委員：財団法人 港湾空間高度化環境研究センター：委員
- ◆ コンテナターミナルの運営効率化研究会：財団法人 港湾空間高度化環境研究センター：委員長
- ◆ 港湾事業評価手法に関する研究委員会：財団法人 港湾空間高度化環境研究センター：委員および分科会長
- ◆ 土浦市公共交通活性化協議会会長：土浦市：会長
- ◆ 水戸都市圏渋滞対策プロジェクト委員会委員長：国土交通省関東地方整備局 常陸河川国道事務所：委員長
- ◆ 次期交通センサスに関する検討会：国土交通省 道路局：委員
- ◆ 千葉県における道路整備効果検討委員会：国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所：委員
- ◆ 取手市都市計画審議会委員：取手市：委員
- ◆ 茨城県移動性・安全性向上委員会委員長：国土交通省関東地方整備局 常陸河川国道事務所：委員長
- ◆ Eastern Asia Society for Transportation Studies：事務局幹事
- ◆ 日本都市計画学会：学術委員
- ◆ 日本交通学会：編集委員

氏 名	奥島 真一郎	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 国際総合学類	兼	社会工学類
研究分野	環境経済学、政策分析		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 環境政策論（国際総合学類開講社会工学類共通）/環境科学とリスクマネジメント（国際総合学類開講社会工学類共通）/総合科目 A（国際総合学類）/国際学ゼミナールⅠ（国際総合学類）/独立論文（国際総合学類）/国際学ゼミナールⅡ（国際総合学類）/卒業論文（国際総合学類）/都市計画実習（社会工学類開講国際総合学類共通）

大学院 環境政策（社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻共通）

◆ 指導学生数：

国際総合学類 7人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金（若手研究（B））「モラルモチベーションと環境政策」（代表）

◆ 著書・論文等：

“Identifying the Sources of Energy Use Change: Multiple Calibration Decomposition Analysis and Structural Decomposition Analysis”（共著） *Structural Change and Economic Dynamics*, 22, December 2011, pp. 313-326.

“An Inquiry into the Sources of Change in Industrial Energy Use in the Japanese Economy: Multiple Calibration Decomposition Analysis”（共著） in M. Bahram, ed., *World Renewable Energy Congress - Sweden, 8-13 May, 2011, Linköping, Sweden*, Linköping University Electronic Press, 2011, pp. 1590-1597.

◆ 学会発表等：

“An Inquiry into the Sources of Change in Industrial Energy Use in the Japanese Economy: Multiple Calibration Decomposition Analysis”（共同発表） World Renewable Energy Congress 2011, Linköping Konsert & Kongress, Linköping, Sweden, May 10, 2011.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
社会・国際学群広報・ネットワーク担当委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
大学院修士論文・特定課題研究委員
国際総合学類コンピュータ委員
国際総合学類 e ラーニング委員
国際総合学類 4 年クラス担任

4. 学外の社会貢献

一橋大学経済研究所非常勤研究員
一橋大学経済研究所共同利用共同研究拠点事業プロジェクト研究「持続可能な福祉国家システムの歴史的・理論的研究」メンバー
日本経済学会 2011 年度秋季大会運営委員
日本政策学生会議（ISFJ）論文審査員
筑波大学「若い世代のための被災地出前講義プロジェクト」講師

氏 名	甲斐田直子	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任 持続環境学専攻 兼担		
専攻（博士前期課程）	環境科学専攻 専任 社会システム工学専攻 専任 経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	環境経済・政策学、国際環境協力評価論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：環境科学とリスクマネジメント／社会調査実習
- ◆ 指導学生数：
環境科学専攻：1 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
早稲田大学 GCOE プログラム「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点」学外研究協力者
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 学会発表等：
甲斐田直子（2011）開発援助と環境管理能力の形成，環境経済・政策学会 2011 年大会，長崎大学.
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
環境科学専攻 JDS 委員会

4. 学外の社会貢献



氏 名	金澤 雄一郎	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	統計科学・応用産業組織論・マーケティング・Criminology		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
データ解析（学類）、Introduction to Management Science and Enginnering（学類）
理論統計学（大学院）、測度論的確率論（大学院）、データ解析（大学院）
- ◆ 指導学生数：
学類 4 名、修士課程 3 名、博士課程 5 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
下記を参照のこと。
- ◆ 著書・論文等：
 1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available. International Economic Review 53(3), pp.887-938, 2012
 2. Another view of impact of BSE crisis in Japanese meat market through the almost ideal demand system model with Markov switching. Applied Economics Letters 19(16), pp.1643-1647, 2011
 3. Introduction to the Variance-Stabilizing Bandwidth for the Nadaraya Watson Estimator. Bulletin of Informatics and Cybernetics 43, pp.53-66 December 2011
 4. オイルショック後の日本における少年の殺人発生率と完全失業率の長期的関連とその構造変化、『理論と方法』27(1), pp.149-168, 2012
 5. 学会発表等：
2011 年統計関連学会連合大会他多数
 6. その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：社会工学類長
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：社会システム・マネジメント専攻運営委員会委員

4. 学外の社会貢献



氏 名	金子 守	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	ゲーム理論・認識論理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：社会経済の課題と方法・ミクロ経済学・ゲーム理論（社会システム工学専攻）
- ◆ ゲーム論・情報戦略演習（社会工学類）
- ◆ 指導学生数：学部学生（平成 23 年度 6 人）修士課程学生 1 人（社会システム工学専攻）

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：帰納的ゲーム理論と認識論理学に関する研究を行った。
- ◆ 著書・論文等：

Kaneko, M., and J. J. Kline, Partial memories, inductively derived Views, and their interactions with behavior, to appear in Economic Theory, DOI: 10.1007/s00199-010-0519-0

Kaneko, M., and J. J. Kline, Inductive game theory: A basic scenario, Game Theory, 83-128, ed. Huang Qiming. Sciyo.com. This is based on the above publications, 59 and 60.

Kaneko, M., and J. J. Kline, Two dialogues on epistemic logics and inductive game theory, ed. A. R. Baswell Advances in Mathematics Research Vol.12. (2012), Nova Science Publisher. New York.

Kaneko, M., and A. Mitra, Discrimination in festival games with limited observability and accessibility (with A. Mitra), Mathematical Social Sciences 62 (2011), 34-45.

Akiyama, E. R. Ishikawa, M. Kaneko, and J. J. Kline, Inductive Game Theory: A simulation study of learning a social situation, to appear in Game Theory, ed. H. Hanappi, InTech, Rijeka. Kaneko, M., and N.-Y. Suzuki, A Measure of logical inference and its game theoretical applications, Logic, Rationality, and Interaction, LNAI6953. 139-150. Springer, (2011).

◆ 学会発表等：

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

4. 学外の社会貢献

◆ 日本学術会議連携会員

氏 名	木島 陽子	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	開発経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 国際開発論／経済学入門 I／経済政策分析
大学院前期課程 国際開発論／日本とアジア経済
- ◆ 指導学生数：

社会工学類 0人／社会システム工学専攻 1人
社会システム・マネジメント専攻 1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

共同研究 科学研究費補助金（基盤研究(A)海外学術調査）「サブサハラ・アフリカにおける緑の革命の進展と貧困削減：パネルデータによる政策評価」（分担）

共同研究 JICA 研究所「サブサハラアフリカのコメ生産拡大に関する実証研究」（分担）
- ◆ 著書・論文等：

Yoko Kijima, Keijiro Otsuka, and Dick Sserunkuuma (2011) “Technology, Soil Fertility, and Poverty: The Case of NERICA Rice in Uganda.” In *Emerging Development of Agriculture in East Africa: Markets, Soil, and Innovations*, edited by Takashi Yamano, Keijiro Otsuka, and Frank Place. Amsterdam, Netherlands: Springer.

Takashi Yamano and Yoko Kijima (2011) “Market Access, Soil Fertility, and Income in East Africa.” In *Emerging Development of Agriculture in East Africa: Markets, Soil, and Innovations*, edited by Takashi Yamano, Keijiro Otsuka, and Frank Place. Amsterdam, Netherlands: Springer.
- ◆ 学会発表等： なし
- ◆ その他： なし

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

留学生委員会、学生支援対応チーム、
日本語・日本語事情等科目編成委員（H23.4 まで）

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

学類	クラス担任（3 年生）、非常勤講師審査委員、学生委員
SSM	学生相談室 委員長

4. 学外の社会貢献

◆ なし

氏 名	岸本一男	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野			

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

- ◆ 指導学生数：

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

- ◆ 著書・論文等：

- ◆ 学会発表等：

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

4. 学外の社会貢献

- ◆

氏 名	倉田 久	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	経営学、サプライチェーン・マネジメント		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 経営情報システム／経営の科学 II／サービスの産業と組織

大学院 ビジネスゲーム／企業計画情報システム

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／経営・政策科学専攻 3人

社会システム・マネジメント専攻 0人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

研究分担者：科学研究費補助金 基盤研究 (A)・23241047 （研究代表者：高木英明教授）

2011 年 4 月より現在に至る

筑波大学 SIP (Service Innovation Project) メンバー

◆ 著書・論文等：

論文（査読付き）

Seong-Hyun Nam, John Vitton, and Hisashi Kurata, (2011), “Robust supply base management: Determining the optimal number of suppliers utilized by contractors,” International Journal of Production Economics, Vol.134 (2), 333-343.

著書 (Book Chapter)

Hisashi Kurata, Xiaohang Yue, and Layth C. Alwan, (2011), “Trade Promotion Mode Selection and Incentive in Fashion Supply Chains,” In Tsan-Ming Choi (Ed.) Fashion Supply Chain Management: Industry and Business Analysis, Chapter 2, IGI Global, Hershey: PA.

Seong-Hyun Nam, John Vitton, and Hisashi Kurata, (2011), ” Determination of the Optimal Level of Collaboration Uncertainty,” In Kenneth D. Lawrence, Ronald K. Klimberg, and Virginia M. Miori (Eds.) *The Supply Chain in Manufacturing*,

Distribution, and Transportation, Chapter 6, CRC Press: Taylor & Francis Group, Boca Raton: FL.

◆ 学会発表等：

“サービスカイゼン研修のカイゼン：筑波大学の事例より (Kaizen of the Service Kaizen Seminar Series: A Case of University of Tsukuba)” 日本経営工学会平成23年度秋季大会、岩手県立大学、2011年11月12日

“How does uncertainty of customer's preference influence after-sales service decisions in a supply chain?” オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会、2011年研究発表大会、横浜国立大学、2011年6月18日

“Does Uncertainty Impact on the Inconsistency between Profit Maximization and Customer Satisfaction?” POMS annual conference 2011 at Reno, Nevada, on April 30, 2011.

◆ その他：

ポスターセッション

“Development Plan of the Optimal Bed Control System for Patients and Staff Satisfaction in the Tsukuba University Hospital,” Participated in the poster session of the Mayo Clinic Conference on Systems Engineering and Operations Research in Health Care 2011, at Mayo Clinic, Rochester Minnesota, on August 10-12, 2011.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類 クラス担任（4年生）、卒業論文編集委員
3専攻合同 運営委員

4. 学外の社会貢献

◆ 学会理事

日本オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会（JOMSA） 研究委員 （2011年より）

◆ 学術雑誌編集委員

Editorial Board member of “International Journal of Revenue Management,” April 2009-present.

◆ 筑波大学公開講座

筑波大学公開講座「サービスカイゼン研修コース」講師及び運営業務担当 2011年5月—2011年6月

氏 名	桑原 史郎	職 名	講師
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	経済成長理論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類： 社工実習・公共政策分析・
大学院：マクロ経済学・公共政策論
- ◆ 指導学生数：
社会工学類：6名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費補助金(若手B) 内生的成長理論を用いた世界の二極化構造の動学的解明(研究代表者：桑原史郎・単独研究)
- ◆ 著書・論文等：
"Does international knowledge spillover always leads to a positive trickle down?"
Revise & Resubmit, Journal of the Japanese and International Economies.
"Polarization, Regime Switch and Economic Policies in the Process of Economic Development" Reject but encouraged to be resubmit as a new article at JEZN
"Weberian Approach on Economic Development in a Schumpeterian Growth Model" under review
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
日本経済学会秋期大会実行委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
カリキュラム委員・総務委員・学類クラス担任(2年)

4. 学外の社会貢献

◆ なし

氏 名	近藤 文代	職 名	講師
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻	専任	
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻 経営・政策科学専攻	専任 専任	
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	マーケティングサイエンス、消費者行動の異質性・ダイナミクス性研究、ベイジアン統計解析		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 統計学Ⅱ／マーケティング工学

大学院前期課程 マーケティングサイエンス／アドバンスドデータ解析／ベイジアン統計解析

◆ 指導学生数：

社会工学類 5人／社会システム工学専攻 1人／

社会システム・マネジメント専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究（A）「データベースマーケティングと消費者理論の融合による CRM の新展開」（研究分担者）

◆ 著書・論文等：

Qazi Mahdia Ghyas, Fumiyo N. Kondo, and Takayuki Kawamoto, Communication Needs of Japan and the United States: A comparative analysis of the use of mobile information services in the proceedings of the MOBILITY 2011: The First International Conference on Mobile Services, Resources, and Users.

◆ 学会発表等：

Qazi Mahdia Ghyas, Fumiyo N. Kondo, and Takayuki Kawamoto, Communication Needs of Japan and the United States: A comparative analysis of the use of mobile information services in the proceedings of the MOBILITY 2011: The First International Conference on Mobile Services, Resources, and Users.

近藤文代・Qazi Mahdia Ghyas, Different Communication Needs between Japan and USA: A Comparative Analysis on Needs of Mobile Information Service, 日本マーケティング・サイエンス学会第 89 回研究大会発表, 6 月 18 日.

石田 尚・近藤文代, Cross-national Analysis on Customer Loyalty of Mobile Information Services Based on A Satisfaction Model, 日本マーケティング・サイエンス学会第 90

回研究大会発表，12 月 4 日．

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 系や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

学類	クラス担任（2 年生）、授業評価委員
SSM	広報委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本マーケティング・サイエンス学会（論文査読）、日本統計学会欧文誌（論文査読）、E T I R（論文査読）

氏 名	佐藤(イリチュ) 美佳	職 名	准教授
専攻 (博士後期課程)	リスク工学専攻 社会システム・マネジメント専攻		専任 兼任
専攻 (博士前期課程)	リスク工学専攻 社会システム工学専攻 経営・政策科学専攻		専任 兼任 兼任
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	データマイニング, 統計科学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類

数理統計学／統計 I／暮らしのリスクと安心・安全な社会形成 (分担)/ 卒業研究

大学院前期課程

ソフトデータ解析/リスク工学前期特別演習 I/リスク工学前期特別演習 II/リスク工学基礎 (分担)/リスク工学前期特別研究 I/リスク工学前期特別研究 II/リスク工学グループ演習 (分担)/リスク工学概論 (分担)/リスク工学インターンシップ (分担)/社会システム工学特別演習 I (分担)/社会システム工学特別演習 II/社会システム工学特別研究/インターンシップ (社会システム工学) /インターンシップ (MBA) (分担)/インターンシップ (MPP) (分担)/特定課題研究(分担)/経営・政策科学特別演習 I(分担)/ 経営・政策科学特別演習 II(分担)/経営・政策科学特別研究

大学院後期課程

リスク工学後期特別演習 (分担)/リスク工学後期特別研究/リスク・ケーススタディ研究 (分担)/リスク工学後期プロジェクト研究/社会システム・マネジメント特別研究/社会システム・マネジメント特別演習 I (分担)/ 社会システム・マネジメント特別演習 II (分担)

◆ 指導学生数：

社会工学類：4人

リスク工学専攻博士前期課程：6人

社会システム工学専攻：1人

リスク工学専攻博士後期課程：1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

「高次シンボリックデータに対するクラスターワイズ手法の開発とその応用」 (代表)

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(A))

「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」(分担)

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B))

「高次元データの理論と方法論の総合的研究」 (分担)

筑波大学大学院システム情報工学研究科教育研究費重点配分「ソフトコンピューティング」 (分担)

◆ 著書・論文等：

M. Sato-Ilic, Symbolic Clustering with Interval-Valued Data, *Procedia Computer Sciences*, Elsevier, Vol. 6, pp. 358-363, 2011

M. Sato-Ilic, Generalized Operators and Its Application to A Nonlinear Fuzzy Clustering Model, *IEEE Symposium Series on Computational Intelligence* 2011, pp. 69-75, 2011.

T. Kuwata and M. Sato-Ilic, Application of a Learning-Based Self-Organized Additive Fuzzy Clustering Method Integrated with the COSA Algorithm, *The 8th International Symposium on Management Engineering*, pp. 99-104, 2011.

M. Sato-Ilic, An Awarded Paper entitled "Generalized Aggregation Operator based Nonlinear Fuzzy Clustering Model", *リスク工学研究*, Vol. 8, pp. 17-22, 2012

◆ 学会発表等：

M. Sato-Ilic, Cluster Harnessing Analyses for High Dimension Low Sample-Size Data, Invited talk at the Databases and Machine Learning Department, University of Paris (LIP6 -UPMC), (招待講演), Paris, France, 2012.

M. Sato-Ilic, Intelligent Symbolic Clustering through High Dimensional Space, Invited talk at the Databases and Machine Learning Department, University of Paris (LIP6 -UPMC), (招待講演), Paris, France, 2011.

M. Sato-Ilic, Identification of Classifier on Subspace of Attributes for Symbolic

Data, 2011年度統計関連学会連合大会, pp. 29, 2011.

M. Sato-Ilic, Cluster Harnessed Principal Component Analysis for Identification of Classifier, 科学研究費基盤研究(A)による研究集会「数理統計学の新たな展開」, 2011.

◆ その他：

・受賞

Best Theoretical Paper Award, M. Sato-Ilic, Symbolic Clustering with Interval-Valued Data, Procedia Computer Sciences, Elsevier, Vol. 6, pp. 358-363, Chicago, USA, 2011.

教育貢献賞, 筑波大学 大学院システム情報工学研究科, 2011.

Fellow, International Society of Management Engineering, 2011.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

システム情報工学研究科留学生委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

リスク工学専攻：カリキュラム委員会委員

広報委員会委員

大学院GPチェック委員会委員

施設委員会委員

「グループ演習」担当（世話人）

グループ演習アドバイザー

総合研究棟B（リスク工学専攻管理部分）建物管理人

学類： クラス担任（3年生）

運営委員会委員

非常勤講師世話人

4. 学外の社会貢献

(1) 海外学術誌編集業務：

Editor in Chief of International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms, Inderscience Publishers, UK

Regional Editor of International Journal on Intelligent Decision Technologies, IOS press, Netherlands

Associate Editor of Neurocomputing, Elsevier, Netherlands

(2) ISI, IEEE等役員・委員：

Council of International Association for Statistical Computing (a Section of the International Statistical Institute)

Vice Chair of the Fuzzy Systems Technical Committee (FSTC) of the IEEE Computational Intelligence Society

IEEE Senior Member

Member of Organizing Committee in the Complex Adaptive Systems

Member of Program Committee for FUZZ-IEEE, The IEEE International Conference on Fuzzy Systems

Member of IEEE Women in Computational Intelligence Committee

(3) その他

統計関連学会連合大会運営委員会副委員長

日本分類学会幹事

Member of Program Committee for 6th International Symposium Advances in Artificial Intelligence and Applications

Member of Local Organizing Committee, The 2nd Institute of Mathematical Statistics Asia Pacific Rim Meeting 2012

Member of International Program Committee at International Society of Management Engineers

Member of International Program Committee at KES

日本知能情報ファジィ学会誌編集委員会委員

日本統計学会企画・行事委員会委員

Track Organizer of the Complex Adaptive Systems 2011, Chicago, USA

Session Organizer of 3rd KES International Symposium on Intelligent Decision Technologies, Piraeus, Greece

Co-organizer, 日本統計学会春季集会, 東京

論文査読:

Advances and Applications in Statistics

Advances in Data Analysis and Classification

Applied Soft Computing

Behaviormetrika

Computational Statistics

Fuzzy Sets and Systems

IEEE Systems, Man and Cybernetics

IEEE Transactions on Fuzzy Systems

IEEE Transactions on Industrial Electronics

IEICE Transaction on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences

Information Sciences

International Journal of Applied Soft Computing

International Journal of Approximate Reasoning

International Journal of General Systems - Intelligent Systems Design

International Journal of Knowledge-based Intelligent Engineering Systems

International Journal of Uncertainty, Fuzziness and Knowledge-Based Systems

Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics

Journal of Classification

Journal of Information Processing

Journal of Information Science

Journal of Institute of Electronics, Information and Communication Engineers

Journal of Intelligent and Fuzzy Systems

Journal of the Japanese Society of Computational Statistics

Neural Networks

Neurocomputing

Systems, Control and Information

計算機統計学

情報処理学会論文誌

知能と情報（日本知能情報ファジィ学会誌）

電子情報通信学会論文誌

日本オペレーションズ・リサーチ学会誌

その他、各種国際会議論文査読多数

氏 名	繁野 麻衣子	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	組合せ最適化，アルゴリズム論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理計画／数理工学モデル化実習／計算機科学

大学院 ビジネス数学／離散最適化理論

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人 社会システム工学専攻 4人

社会システムマネジメント専攻 2人 経営政策科学専攻（特定課題）3人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(C)「ネットワーク構造解析アルゴリズムの開発とネットワークアルゴリズムの総合的展開」(代表)

科学研究費 基盤研究(A)「患者の満足とスタッフの適正論文を実現する地域機関病院の医療サービス科学」(分担)

栢森情報科学振興財団「ネットワーク構造の特徴づけを与えるアルゴリズム」(代表)

学術指導 横浜南共済病院「手術室スケジュールに対するモデル別効果の検証と効率的スケジュール手法の提案に関する学術指導」(代表)

共同研究 牛久市福祉課「コミュニティバス運行最適化に関する研究」(分担)

◆ 著書・論文等：

Satoshi TAKAHASHI and Maiko SHIGENO "Approximation algorithms for a winner determination problem of single-item multi-unit auctions, " JSIAM Letters, 3 (2011) 29-32

Reiko TAKEHARA, Masahiro HACHIMORI and Maiko SHIGENO "A comment on pure-strategy Nash equilibria in competitive diffusion games, " Information Processing Letters, 112 (2011) 59-60

池上敦子, 繁野麻衣子「質の高いサービスを提供するためのスタッフスケジューリング」電子情報通信学会誌, 94(2011) 760-766

宮川裕幸, 繁野麻衣子, 高橋里司, 張明超 「隣接数に着目したハイパーグラフ上のコミュ

ニティ抽出」数理解析研究所講究録（最適化理論の深化と広がり）1773（2011）121-130

竹原令依子, 繁野麻衣子「ネットワーク上の情報拡散ゲームに関する一考察」数理解析研究所講究録（最適化理論の深化と広がり）1773（2011）131-141

「数理工学事典」朝倉書店(2011), ネットワーク理論執筆担当

◆ 学会発表等：

S. Fukai, N. Hirose, K. Miki, M. Shigeno, “Case studies of scheduling in traffic services by optimization technique,” International Symposium on Scheduling 2011, 2011.7.2-4, 大阪大学

張明超, 羅松, 繁野麻衣子「2-連結な C6-飽和グラフの最小枝数」離散数学とその応用研究集会 2011, 2011.7.31-8.2, 奈良県文化会館/奈良県婦人会館

高橋里司, 繁野麻衣子「VCG メカニズムによるオークションの最適供給量に関する一考察」日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会, 2011.9.15-16, 甲南大学

深井聡, 廣瀬伸行, 三木一貴, 繁野麻衣子「交通サービスにおける最適化手法によるスケジューリング事例」日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会, 2011.9.15-16, 甲南大学

宮崎未来, 繁野麻衣子「最終完了時刻最小化のオンラインスケジューリングに関する一考察」スケジューリング・シンポジウム 2011, 2011.9.24-25, 大阪工業大学

高橋里司, 竹房あつ子, 繁野麻衣子, 田中秀基, 工藤知宏, 吉瀬章子「消費電力削減のための仮想計算機パッキング問題に対する解法」日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会, 2012.3.27-28, 防衛大学校

蔡文静, 金夕雯, 萱野聡, 宮原直紀, 李灌竹, 繁野麻衣子, 譚鵬成, 塚本一也, 韋慶娜, 張勇兵「GPS 配車管理システムデータによるタクシー顧客利用分析事例」日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会, 2012.3.27-28, 防衛大学校

宮崎未来, 繁野麻衣子「3 台の機械のためのオンラインアルゴリズムの競合比評価」研究集会「最適化：モデリングとアルゴリズム」, 2012.3.15-16, 政策研究大学院大学

宮原直紀，張勇兵，繁野麻衣子，塚本一也「GPS タクシー配車履歴データの可視化およびその分析」第 119 回情報システムと社会環境研究発表会，2012. 3. 15-16，専修大学

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類 運営委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本応用数理学会論文誌編集委員
日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌編集委員
公開講座「サービスカイゼン研修コース」講師
サイエンスパートナーシッププロジェクト 講師

氏 名	庄 司 功	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	時系列解析		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 計量時系列分析／計量ファイナンス実習／統計学

大学院前期課程 時系列解析
- ◆ 指導学生数：

修士：1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究 C「心理的バイアスを考慮した意思決定問題に関する計算モデルの開発とその応用」（代表）
- ◆ 著書・論文等：

Takahashi, K. and Shoji, I., (2011), An empirical analysis of the volatility of the Japanese stock price index: A nonparametric approach, Journal of Applied Statistics, 38, 1381-1394.
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

コンピューター委員会

4. 学外の社会貢献

- ◆

氏 名	鈴木 勉	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 社会システム・マネジメント専攻	専任 兼担	
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 社会システム工学専攻 経営・政策科学専攻	専任 兼担 兼担	
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	立地科学，都市空間構造，持続可能型都市形態，都市リスク分析，地理情報の都市計画への応用		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

総合科目 都市・地域・環境を探るⅢ

社会工学類 線形代数Ⅰ／都市データ分析／都市計画実習／都市解析／
暮らしのリスクと安心・安全な社会形成

博士前期課程 リスク工学概論／都市機能リスク論／都市・地域解析学／
都市リスク分析演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／リスク工学専攻 5人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金（基盤研究(A)）「地理情報科学と都市工学を融合した空間解析手法の新展開」（代表）

科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究） 「集約型都市構造設計への交通システムのインテグレーションに関する研究」（代表）

住友財団環境研究助成（一般研究）「都市規模・密度に着目したデマンド型交通導入による環境負荷低減の可能性」（代表）

ユニバーサル財団研究助成 「ニュータウン縮小期の商業施設の立地変化による高齢者の購買難民化」（代表）

大林都市研究振興財団国際交流助成 「高齢層の購買行動と高齢化に対応した商業立地構造に関する日韓比較研究」（代表）

三菱財団社会福祉助成 「高齢者の購買難民化リスクに対する商業施設の適正な配置構造に関する研究」（代表）

筑波大学革新的研究等支援プログラム 「学生協働・地場連携による筑波大学キャンパス・

リノベーション・グリーン・イノベーションとライフ・イノベーションの融合」(分担)
筑波大学東日本大震災復興支援プログラム 「いわき市における震災復興活動のための学術的支援と自治体職員・住民を対象とした復興支援連続セミナー」(分担)

◆ 著書・論文等：

長谷川大輔・鈴木勉, 「都市規模・密度に着目したデマンド型交通成立条件に関する理論的考察」, 都市計画論文集, Vol. 46, No. 3, pp. 817-822, 2011.

鈴木勉, 「既存施設を活用した都市施設の再配置モデル-メディアン型およびカバリング型条件付き施設配置モデルの一般化と統廃合への応用-」, 都市計画論文集, Vol. 46, No. 3, pp. 421-426, 2011.

Tsutomu Suzuki and Sohee Lee, "Jobs-Housing Imbalance, Spatial Correlation, and Excess Commuting," *Transportation Research Part A*, Vol. 46, pp. 322-336, 2012.

◆ 学会発表等：

Yuran Choi and Tsutomu Suzuki, "Measuring Accessibility to Groceries in the Tokyo Metropolitan Area Considering Social Exclusion," presented at Computers in Urban Planning and Urban Management 2011 Conference (CUPUM 2011), Lake Louise, Canada, July 6-9, 2011.

Yuran Choi and Tsutomu Suzuki, "Finding Critical Facility Location of Commercial Facilities in Demand-declining Urban Area," presented at the 19th Triennial Conference of the International Federation of Operational Research Societies (IFORS 2011), Melbourne, Australia, July 10-15, 2011.

鈴木勉, 「既存施設を活用した施設統廃合・再配置モデル」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp. 6-7, 2011.

崔唯爛・鈴木勉, 「災害に強い施設整備」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp. 196-197, 2011.

鈴木勉, 「2種類の施設を統合する施設配置決定問題：幼保一元化を例として」, 地理情報システム学会講演論文集, 2011.

長谷川大輔・鈴木勉, 「運行シミュレーションによるデマンド型交通システムの適切な運行形式に関する研究 ～茨城県常総市を例として～」, 地理情報システム学会講演論文集, 2011.

崔唯爛・鈴木勉, 「地理的加重回帰法(GWR)を用いた食料品アクセシビリティの推定～東京都を例に」, 地理情報システム学会講演論文集, 2011.

崔唯爛・鈴木勉・李召熙, 「日本における大型食料品店の立地と高齢化に関する研究」, 2011年度 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会(CSIS DAYS 2011), 2011.

鈴木勉・中野慎吾・袁新 YAO・林恵子,「海岸地域における津波避難モデル」,日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp. 116-117, 2012.

崔唯爛・鈴木勉,「商業施設撤退による購買難民化リスク最小化問題」,日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp. 14-15, 2012.

長谷川大輔・鈴木勉,「運行シミュレーションによるデマンド型交通の適切な車両台数・定員」,日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp. 122-123, 2012.

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
つくばエコシティ推進グループ委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
システム情報工学研究科リスク工学専攻予算委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌編集委員, IAOR 委員会委員
国土交通省国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会委員
常総市公共交通活性化協議会会長
守谷市公共交通活性化協議会委員
土浦市消防本部新庁舎建設検討委員会委員
筑波研究学園都市交流協議会 3 E フォーラム都市構造・交通システムタスクフォース座長

氏 名	住田 潮	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	<div> <div> ・金融工学 ・インターネットを中心とする IT 分析 ・ロジスティクスシステム分析 ・応用確率論 ・組織行動論 </div> <div> ・マーケティング・サイエンス ・生産システム分析 ・国際経営比較 ・応用確率過程論 ・起業と革新マネジメント </div> </div>		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 経営の科学 II 【0.5】／社会基盤と情報ロジスティクス産業 【1.2】／
応用確率論 【2.0】／東京の都市学 【0.1】／社会工学実習 【0.1】

大学院前期課程 経営工学における課題と方法 【1.0】／確率システム解析 【2.0】
e-グローブ・マネジメント 【2.0】

◆ 指導学生数：

- 博士： 修了 1 名、指導中 9 名
- 修士： 修了 15 名、指導中 18 名
- 学類： 修了 6 名、指導中 2 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：下記に示す外部競争資金合計 978 万円を獲得し、企業との共同研究プロジェクト4件とアメリカのユタ大学との e-MOM 国際比較研究に関する共同研究プロジェクトとを組織し、博士、修士、学類の 50 名を越える学生諸君と共に活発な研究活動を展開した。

- 1) 奨学寄付金：ソシオテック研究所 「グローバル教育の研究」 300 万円
- 2) 奨学寄付金：T 社「クレジット・カード戦略分析」 200 万円
- 3) 奨学寄付金：リゾーム社「POS 解析によるショッピングセンター戦略分析」
200 万円
- 3) 委託研究：太陽誘電モバイル・テクノロジー「防御保全の方法論確立」
200 万円
- 4) 科研費 基盤研究（C）：「CRM とインターネット：優良顧客識別アルゴリズム
の評価とブラウジング行動解析」 78 万円

◆ 著書・論文等：

1. “Evaluation of Network Reliability via Combined Use of Ordinary and Reversed Hazard Rate Functions, ” (with J. Yoshii), *The Proceeding of 5th Annual International Conference on Mathematics, Statistics & Mathematical Education, Athens, Greece, June 13-16, 2011*
2. “Analysis of Collateralized Debt Obligation Scheme Applied to Newsboy Problem,” (with R. Isogai and S. Ohashi), *Proceedings of International Conference on Business and Information, July 4-6, Bangkok, Thailand, 2011*
3. “Dynamic Analysis of a Credit Risk Model with Contagious Default Dependencies for Pricing Collateralized Debt Obligations and Related European Options,” (with H. Takada), *European Journal of Operations Research, Vol. 214, pp 365-379, 2011*
4. “Analysis of Brand Characteristics of Music Artists in the POP CD Market : Case of Japan,” (with K. Takahashi and J. Yoshii), *Journal of the Operations Research Society of Japan, Vol. 54, No. 2-3, pp. 101-123, 2011*
5. “Application of Collateralized Debt Obligation Approach for Managing Inventory Risk in Classical Newsboy Problem,” (with R. Isogai and S. Ohashi), *International Journal of Business and Information, Volume 6, Number 1, pp 35-76, June 2011*
6. “Pricing Collateralized Debt Obligations with Markov Modulated Poisson Process Approach,” (H. Takada, and K. Takahashi), *Quantitative Finance, Vol. 11, No. 12, pp1761-1771, December 2011*
7. “The Impact of Swapping Risks in Facilitating Capital Investment in e-Commerce” , *International Journal of Electronic Commerce Studies, Vol. 2, No. 2, pp87-103, December 2011*
8. “Development of Sequential Association Rules for Preventing Minor-Stoppages in Semi-Conductor Manufacturing,” (with J. Yoshii), *Proceedings of International Conference on Operations Research and Enterprise Systems, Vilamoura, Algarve, Portugal, February 4-6, 2012*
9. “Online Opinion Divide or Convergence: Cross Country Comparison,” (with O. Sheng, J. Yoshii and M. Valentine), *Winter Conference on Business Intelligence, Utah, March 1-3, 2012.*
10. “Structural Analysis of “National Brand vs. Store Brand” with Stochastic Demands,” (with M. Kotani), *Proceedings of 2012 International Conference on e-Commerce, e-Administration, e-Society, e-Education and e-Technology, Hong Kong, March 31-April-1, 2012*
11. “Analysis of e-Word-of-Mouth Information for Cosmetic Products in Japan,” (with A.H. Kim), to appear in *International Journal of Electronics Commerce Studies*

12. “Impact of Mobile Accesses to the Internet on Sales Completion Time in e-Commerce with Multiple Classes of Customers,” (with J. Yoshii), to appear in *Journal of Modern Accounting and Auditing*
13. “Dynamic Analysis of a Multivariate Reward Process Defined on the UMCP with Application to Optimal Preventive Maintenance Policy Problems in Manufacturing,” (with J. Huang, R), to appear in *Journal of the Operations Research Society of Japan*
14. “Evaluation of Cumulative Random Shocks Generated from a Semi-Markov Modulated Poisson Process and Its Application to CDO Pricing, ” (with J. Huang, R), to appear in *Probability in Engineering*

◆ 学会発表等：

1. *The 5th Annual International Conference on Mathematics, Statistics & Mathematical Education, Athens, Greece, June 13-16, 2011*
2. *International Conference on Business and Information, July 4-6, Bangkok, Thailand, 2011*
3. *International Conference on Operations Research and Enterprise Systems, Vilamoura, Algarve, Portugal, February 4-6, 2012*
4. *Winter Conference on Business Intelligence, Utah, March 1-3, 2012*
5. *International Conference on e-Commerce, e-Administration, e-Society, e-Education and e-Technology, Hong Kong, March 31-April-1, 2012*

◆ その他：

The Distinguished Paper Award, (with M. Kotani), Proceedings of 2012 International Conference on e-Commerce, e-Administration, e-Society, e-Education and e-Technology, Hong Kong, March 31-April-1, 2012

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献： 特に無し
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）： 特に無し

4. 学外の社会貢献

- 1) JIRCAS 外部評価委員
- 2) ソシオテック研究所 顧問
- 3) 日本能率協会 Professional Leader Course 主任講師
- 4) 多数の専門誌における論文査読

- 5) 多数の企業経営幹部に対する講演活動
- 6) 編集委員：*International Journal of Business and Information*
- 7) 編集委員：*Global Journal of Flexible Systems Management*

氏 名	高木 英明	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻	専任	
	経営・政策科学専攻	専任	
	コンピュータサイエンス専攻	兼担	
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	応用確率過程，待ち行列理論，サービスサイエンス		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 社会工学類 微積分Ⅰ／応用確率過程
 - 社会システム工学専攻 応用確率過程論
 - 経営・政策科学専攻 サービス科学：理論と実践／特定課題研究
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 1 人、社会システム工学専攻 2 人
 - 経営・政策科学専攻 6 人、社会システム・マネジメント専攻 2 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 1. 科学研究費補助金，基盤研究(A)「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学（研究代表者）」
 2. 産学連携推進プロジェクト（アントレプレナーシップ教育及び知財教育支援）「サービス産業におけるイノベーション・リーダーの科学的育成と経営改善支援（代表者）」
 3. VBL教育支援プログラム「サービス業務におけるイノベーションの教育とビジネス・リーダーの育成」（代表者）
- ◆ 著書・論文等：
 1. 高木英明・吉瀬章子「サービスサイエンスの動向」、電子情報通信学会誌、Vol. 96, No. 9, pp. 756-759、2011 年 9 月.
 2. 菱沼千明・高木英明「コールセンターのキャパシティマネジメント」、電子情報通信学会誌、Vol. 96, No. 9, pp. 767-772、2011 年 9 月.
 3. 高木英明、OR の視点から見たサービスサイエンス～待ち時間の数理と心理～、木下栄蔵編著『サービスサイエンスの理論と実践』第 4 章、pp. 43-61、近代科学社、2011 年 9 月.
- ◆ 学会発表等：
 1. 高木英明・山下慶三、患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学、日本オペレーションズ・リサーチ学会サービスサイエンス研究部会、

筑波大学、2011 年 5 月 13 日.

2. H. Takagi, H. Kurata, Y. Okada, M. Shigeno, K. Yamashita, and A. Yoshise, “Development Plan of the Optimal Bed Control System for Patients and Staff Satisfaction in the Tsukuba University Hospital,” Poster Session, Mayo Clinic Conference on Systems Engineering and Operations Research in Health Care, August 10–12, 2011, Mayo Clinic, Rochester, Minnesota, U.S.A.
3. 第 1 回サービス研究合同シンポジウム「数理的アプローチによるサービス・イノベーション」、京都大学経営管理大学院、2011 年 11 月 18 日.
4. 倉田久、生稲史彦、岡田幸彦、高木英明、張勇兵、繁野麻衣子、吉瀬章子「サービスカイゼン研修のカイゼン：筑波大学公開講座の事例より」、日本経営工学会、平成 23 年度秋季研究大会、いわて県民情報交流センター、2011 年 11 月 12 日.
5. 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」オペレータの後処理と客の待合せ 放棄があるコールセンターの簡易待ち行列モデル」(川合洋輔と共著)、報文集 pp. 188–197、2012 年 1 月 18 日、ホテルクラウンパレス浜松.
6. H. Takagi, Service Innovation by Mathematical Approach, Fifth Invited Workshop and Open Symposium on Service Systems Science, 東京工業大学大岡山キャンパス, 2012 年 2 月 21 日.
7. 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2012 年春季研究発表会、「Little の定理の大きな応用」(根本達哉と共著)、アブストラクト集 pp. 82–83、防衛大学校、平成 24 年 3 月 27 日.
8. 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2012 年春季研究発表会、「介護福祉施設における利用者・従業員・地域の協業によるサービス品質向上の研究」(黄碧紅、徐亜平、倪怡恩、孔令書、孔妍妮、家内祐太と共著)、アブストラクト集 pp. 88–89、防衛大学校、平成 24 年 3 月 27 日.

◆ その他：

筑波大学公開講座：サービス科学カイゼンコース、責任者、2011 年 5～6 月

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

システム情報工学研究科：研究倫理委員会（委員長）

筑波大学出版会 運営・編集委員

北アフリカ研究センター運営委員・研究員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

修士論文・特定課題研究委員長、特定課題研究世話人

4. 学外の社会貢献

- ◆ 北陸先端科学技術大学院大学 アカデミックアドバイザー
- ◆ 独立行政法人森林総合研究所 本所コンプライアンス推進委員会委員
- ◆ 筑波大学産学連携会 会長補佐
- ◆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会サービスサイエンス研究部会主査
- ◆ Performance Evaluation 誌 編集委員
- ◆ SRII Japan、Steering Committee メンバー
- ◆ 2011 年度待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」、実行委員
- ◆ 筑波銀行 つくば産業創造懇談会座長

氏 名	高橋正文	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野			

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

- ◆ 指導学生数：

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

- ◆ 著書・論文等：

- ◆ 学会発表等：

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

4. 学外の社会貢献

- ◆

氏 名	TURNBULL, Stephen John	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野			

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

- ◆ 指導学生数：

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

- ◆ 著書・論文等：

- ◆ 学会発表等：

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

4. 学外の社会貢献

- ◆

氏 名	竹原 浩太	職 名	助教
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	数理ファイナンス，金融工学，応用確率解析		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：数理工学モデル化実習（香田教授・繁野教授・山本教授と共同）
大学院：投資科学（岸本教授と共同）
- ◆ 指導学生数：
2011 年 4 月 1 日着任のため，2011 年度はなし

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
「アメリカン型オプションに対する解析的価格評価方法の構築」，
科研費研究活動スタート支援，研究代表者
「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」，
科研費基盤研究A・一般，研究分担者（代表者：筑波大学 高木英明教授）
- ◆ 著書・論文等：
Kohta Takehara, Masashi Toda and Akihiko Takahashi,
“A General Computation Scheme for a High-Order Asymptotic Expansion Method,”
forthcoming in International Journal of Theoretical and Applied Finance, 2011
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
大学院：カリキュラム委員
経営政策科学専攻：革新的教育プロジェクト「GPA 導入に向けた適正評価モニタリングシステムの構築と運用」

4. 学外の社会貢献

◆ 所属学会

日本ファイナンス学会，日本金融・証券計量・工学学会，日本 OR 学会，日本統計学会（役員等はない）

◆ 論文査読実績

和文誌：現代ファイナンス

英文誌：Asia-Pacific Financial Markets, International Journal of Theoretical Finance, Mathematical Finance

査読付国際会議録：the Proceedings of KIER-TMU International Workshop on Financial Engineering 2011

氏 名	谷口綾子	職 名	講師
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 社会システム・マネジメント専攻	専任 兼任	
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻	専任 兼任	
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	都市交通計画，態度行動変容研究，災害リスク・コミュニケーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

【学類】 都市計画実習，統計Ⅰ，交通計画，暮らしのリスクと安心・安全な社会形成，
【大学院前期課程】 都市安全管理特論，リスク工学特別演習，リスク工学基礎，都市
リスクコミュニケーション，リスクマネジメント序論

◆ 指導学生数：学類3名，大学院2名 慧名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 平成22-24年度 科学研究費(若手B)(代表) 子育てバリアフリーの実現に向けた子連れ外出の難易度認知に関する研究 1000,000円
2. 平成22-24年度 科学研究費(基盤B(分担)) パーソナル・ヴィークルの共同利用システムの社会導入のためのMM研究 400,000円
3. 平成22-24年度 科学研究費(基盤B(分担)) エクメーネ・リサージェンスの新体系構築 500,000円
4. 平成22-24年度 科学研究費(基盤A(分担)) 市民生活行動学の構築による部門横断型まちづくりのための政策意思決定方法論の開発 200,000円
5. 平成22-24年度 科学研究費(基盤B(分担)) シティズンシップ教育アプローチによるMM教育のカリキュラム構築 500,000円
6. 平成22-24年度 科学研究費(基盤C(分担)) 標識撤去による美的で安全な交通環境「Shared Space」に関する研究 200,000円

◆ 著書・論文等：

- (1) 大森宣暁，谷口綾子，真鍋陸太郎，寺内義典，青野貞康：子育て中の女性の外出行動とバリアに対する意識に関する研究 -首都圏在住の乳幼児を持つ母親を対象として-，都市計画論文集 Vol.46 No.3, pp.259-264, 2011.
- (2) 谷口綾子：大学におけるカーシェアリング・システム導入時の潜在需要予測と利用促

進 -筑波大学の事例-, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol. 67, No. 5 (土木計画学研究・論文集第 28 巻), I_1103-I_1112, 2011.

- (3) 佐藤良太, 谷口綾子: バスチョイス層のバス利用満足度に接客サービスが与える影響に関する研究, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol. 67, No. 5 (土木計画学研究・論文集第 28 巻), I_1149-I_1155, 2011.
- (4) 糟谷賢一, 谷口綾子, 石田東生: 交通環境教育への健康問題追加による影響分析, 土木学会論文集 H, Vol. 3, pp. 12-21, 2011.
- (5) 佐藤 慎祐・菊池 輝・谷口 綾子・林 真一郎・西 真佐人・小山内 信智・伊藤 英之・矢守 克也・藤井 聡: 災害情報のメタ・メッセージによる副作用に関する研究, 災害情報, 9, pp. 172-178, 2011.

◆ 学会発表等:

- (1) 谷口綾子・林真一郎・小山内信智・伊藤英之・藤井聡・菊池輝: 土砂災害避難リスク・コミュニケーション・プログラムの行動誘発効果 ～鹿児島県さつま町の事例～, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 44, 2011.
- (2) 今井唯・谷口綾子・原文宏: 観光地における多様な主体の地域愛着に関する研究～ニセコ・倶知安地域を事例として～, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 44, 2011.
- (3) 谷口綾子・奥山有紀・真鍋陸太郎・大森宣暁・寺内義典: 欧州諸国の子育て支援策に関する基礎的研究 ～子育て政策とバリアフリー政策に着目して ～, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 44, 2011.
- (4) 吉村聡哉, 谷口綾子, 石田東生: 車両と歩行者・自転車間のコミュニケーションによる協調行動の生起に関する研究, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 43, 2011.
- (5) 奥山有紀, 谷口綾子: 子育てバリアフリーにおける世代間ギャップの存在に関する研究, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 43, 2011.
- (6) 谷口綾子, 林真一郎, 矢守克也, 伊藤英之, 菊池輝, 西真佐人, 小山内信智, 藤井聡: 小学校における土砂災害避難行動誘発のための授業の効果分析, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol. 43, 2011.

◆ その他:

- (1) 土木学会: 日本土木史 「8. 5. 2 社会心理学に基づく態度行動変容方計画論」分担執筆, 2012.
- (2) モビリティ・マネジメント教育: 東洋館出版社, 2011. (共著)
- (3) 谷口綾子: なぜ, 混むとわかっている GW にクルマで外出するか?, 区画整理 6 月号 「随想」, pp. 4-5, 2011.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 自転車環境WG（学生生活課）
 - 男女共同参画推進室員（男女共同参画推進室）
 - キャンパス交通システムの利用促進
 - 筑波大学カーシェアリングシステム「カーシェアつくば」の導入，マネジメントと利用促進
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - リスク工学専攻 広報委員，FD 委員
 - 社会工学類 クラス担任（3 年生）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動（役員/委員、論文査読等）
 - 土木学会論文集 H 部門 論文編集委員
 - 日本災害情報学会 学術委員会 論文編集委員
 - 土木と学校教育フォーラム 実行委員会 幹事
 - 日本モビリティマネジメント会議 実行委員会 委員兼幹事
- ◆ 招待講演・基調講演
 - (1) ブロードバンド&グローバル戦略特別セミナー「『カーシェアリング』市場へ I T 事業進出」における講演，タイトル「都市交通としてのカーシェアリング」 2012 年 3 月
 - (2) 札幌市 交通まちづくりシンポジウムにおける講演 「モビリティ・マネジメントとは？～背景と概要～」 2012 年 3 月
 - (3) 長野県庁 地球温暖化対策戦略再構築事業における講演 「低炭素型交通を目指す交通施策モビリティマネジメントの概要と事例」 2012 年 2 月
 - (4) 横浜市役所 モビリティマネジメントセミナーにおける基調講演 「モビリティ・マネジメントの概要と事例」 2012 年 1 月
 - (5) 山形県庁 フラワー長井線調査検討会議における講演 「モビリティ・マネジメントによる長井線の利用拡大」 2011 年 10 月
 - (6) 相模原市 職員研修における講演 「過度にクルマに依存することのない交通行動について，かしこいクルマの使い方，Smart な移動とは？」 2011 年 9 月
 - (7) 神奈川県庁 欧州交通施策の講演 「欧州各国の国土計画・地域政策，イタリアでの MM 施策，公共交通情報について」 2011 年 9 月
 - (8) 新潟市 健幸になれるまちづくりフォーラムにおけるパネリスト「健幸都市と交通～かしこいクルマの使い方を考える～」 2011 年 6 月 11 日
- ◆ 委員会その他の社会活動

- (1) 内閣府 民間資金等活用事業推進委員会委員 2012 年 1 月～
- (2) 横浜市都市整備局 「次世代の総合的な交通体系検討会」 委員 2011 年 12 月～
- (3) 高岡市 地域公共交通活性化会議 委員 2010 年 9 月～
- (4) 那珂市 地域公共交通活性化会議 委員 2012 年 2 月～
- (5) 国土交通省鉄道局都市鉄道課 「東京圏における鉄軌道整備の現状把握と今後の方向性の検討に関する調査委員会」 委員 2011 年 9 月～
- (6) 富山市役所 富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会 委員 2011 年 10 月～
- (7) 札幌市役所 「札幌らしい交通環境学習検討委員会」 委員 2011 年 8 月 17 日～2014 年 3 月 31 日
- (8) 旭川市役所 生活交通ネットワーク協議会 プロデューサー 2011 年 8 月～
- (9) 新潟県三条市 スマートウェルネス三条推進会議委員 委員 2011 年 9 月～
- (10) 静岡県庁 伊豆地域の道路整備のあり方検討会 委員 2011 年 7 月～
- (11) (社)土木学会 2010 年度土木計画学研究委員会 第 4 回国際セミナー【Shared Space】
開催(講師:カール・ハインツ・ポッシュ氏(オーストリア、FGM ディレクター): 2011 年 8 月 2 日
- (12) 相模原市 TDM 社会実験 座長
- (13) 龍ヶ崎市公共交通活性化協議会 委員
- (14) モビリティ・マネジメント教育普及検討委員会 委員 交通エコロジー・モビリティ財団 2009 年 1 月～
- (15) 国土交通省運輸審議会 運輸安全マネジメント部会 専門委員(2008 年 4 月～)
- (16) 茨城県かすみがうら市 総合交通会議 委員 2008 年 10 月～
- (17) 茨城県都市計画課 鹿島鉄道跡地の BRT 検討委員会 委員
- (18) 秦野市 TDM 計画 小学校における TDM 教育 アドバイザー・講師
- (19) 三郷市環境審議会 委員
- (20) 交通政策審議会 環境部会 臨時委員、国土交通省(2007 年 4 月～)

氏 名	谷 口 守	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻		専任
	経営・政策科学専攻		専任
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	都市地域計画，交通計画，環境計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市計画実習／現代都市環境論／都市構造論／交通政策論
大学院前期課程 社会資本ストック管理政策

◆ 学類卒業生，博士前期・後期課程修了生の氏名と論文題目

学類

根本拓哉：集落における生活の自立可能性の変遷

- 集落内でできることの昔・今・これから -

肥後洋平：都市計画マスタープランにおけるコンパクトシティ政策の現状と展望

山口裕敏：他地域援助の実態とその参加要因に関する研究

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(B)「エクメーネ・リサーチジェンスの新体系構築」(代表)

科学研究費 挑戦的萌芽研究「サイバースペースを考慮したトータルスペース・マネージメント手法の開拓」(代表)

科学研究費 基盤研究(B)「都市圏の構造変化メカニズムと多核的都市整備に関する学術的研究」(分担)

科学研究費 基盤研究(A)「交通まちづくりの計画手法に関する研究」(分担)

研究助成金 「新しい情報通信技術を活かした地域再生策の研究」

テレコム先端技術研究支援センター(財)(代表)

研究助成金 「交通需要予測に頼らない「縁結び型」松江交通まちづくり」

民間都市開発推進機構(財)(代表)

◆ 著書・論文等：

著書

・Ujihara, T. and Taniguchi, M.: Trading system of environmental loads: interregional

cap and trade system using an ecological footprint, Ed. by C. A. Brebbia and E. Beriatos: Sustainable development and planning V, pp.381-396, WIT PRESS, 2011.7.

査読付き論文

- ・中道久美子・村尾俊道・義浦慶子・谷口守：転居前後の自動車利用変化とそれによる CO2 排出量削減のための意識啓発を考慮した都市コンパクト化施策の検討、土木学会論文集 D3、Vol. 67、No. 3、pp. 300-311、2011.7.
- ・谷口守・山口裕敏・肥後洋平：キスアンドライド駐車場整備とその利用実態・促進に関する一考察、一つくばセンター地区に見る新たな状況一、交通工学論文報告集、Vol. 31、CD-Rom、2011.9.
- ・植田拓磨・山室寛明・谷口守：サイバースペースへの空間代替が自動車CO₂排出量と都市内滞留時間に及ぼす影響、一買い物行動に着目して一、都市計画論文集、No. 46、pp. 763-768、2011.11.
- ・谷口守・宮木祐任：まちづくり交付金活用自治体による評価指標設定と自己評価の傾向分析、都市計画論文集、No. 46、pp. 1003-1008、2011.11.
- ・谷口守・落合淳太：住宅街区特性から見たスマートグリッド導入適性、不動産学会誌、Vol. 25、No. 3、pp. 100-109、2011.12.
- ・高見淳史・植田拓磨・藤井正・谷口守：ベルリン都市圏の中心地再編にみる新たな縮退型都市圏計画の一考察、地域学研究、Vol. 41、No. 3、pp. 785-797、2011.12.
- ・谷口守・芝池綾・橋本成仁：都市計画行政担当者のソーシャル・キャピタル・キャパビリティ（SCC）に関する一考察、一コンパクトシティ政策に対する態度形成効果と遡及分析一、土木学会論文集 D3、Vol. 67、No. 5、I255-I262、2012.1.
- ・谷口守・橋本成仁・藤井啓介・金井太志・落合淳太：都市サービス撤退に伴う都市構造リスクの発生パターンに関する一考察、土木学会論文集 D3、Vol. 67、No. 5、I263-I269、2012.1.
- ・安立光陽・鈴木勉・谷口守：コンパクトシティ形成過程における都市構造リスクに関する予見、土木学会論文集D3、Vol. 68、No. 2、pp. 70-83、2012.4.

論説

- ・谷口守：コンパクトシティ政策の現状と課題、道路建設、No. 725、pp. 21-23、2011.5.
- ・谷口守：これからの道路づくりと公共交通、道路、Vol. 844、pp. 4-11、2011.7.
- ・谷口守・落合淳太：住宅地からみたスマートグリッドの導入可能性、一エネルギーの「やりくり」を考える一、住宅、特集：スマートシティ、Vol. 60、No. 7、pp. 43-48、2011.7.
- ・谷口守：苦難が育てた都市：タリン、都市計画、Vol. 60、No. 6、p. 74、2011.12.
- ・谷口守：「交通まちづくり」を再考する、「スマートまちづくりフォーラム in 水戸」論集 2012、pp. 1-2、人と環境にやさしい交通をめざす協議会編、2012.2.

◆ 学会発表等：

口頭発表

- ・飯野公央・神田佑亮・山東信二・杉谷年章・深江篤司・西ノ原真志・山本活稔・谷口守：松江都市圏におけるノーマイカーウィークの実施、－4年間にわたる職場 MM の地道な展開による成果－、第6回 JCOMM、2011. 7.
- ・花岡嘉一・芝海潤・高橋正・谷口守・さいたま市環境局環境共生部環境対策課・小田原市都市部都市政策課：持続的なエコ通勤に向けた“エコ通勤支援サイト”の構築、第6回 JCOMM、2011. 7.
- ・谷口守：コンパクトシティ政策の来し方行く末、日本地域政策学会、第10回記念大会、第一分科会（都市）、わが国におけるコンパクトシティ政策の再検討、－持続可能な都市づくりのために－、2011. 7.
- ・宮木祐任・谷口守：自治体による自己評価の傾向と課題、－まちづくり交付金における指標設定とその評価を通して－、土木計画学・講演集、No. 44、2011. 11.
- ・谷口守・山室寛明・植田拓磨：買い物行動のサイバースペースへの移行が実スペースの活動に及ぼす影響、土木計画学・講演集、No. 44、2011. 11.
- ・植田拓磨・山室寛明・谷口守：買い物行動のサイバースペースへの移行実態とその要因分析、土木計画学・講演集、No. 44、2011. 11.
- ・谷口守・落合淳太：技術革新が街区ごとのスマートグリッド導入適性へ及ぼす影響、土木計画学・講演集、No. 44、2011. 11.
- ・宮木祐任・森英高・佐藤剛・古山守夫・高橋護・谷口守：復興計画の策定過程における住民意見の変容について、－東松島市での住民説明会におけるキーワード分析を通じて－、都市計画報告、No. 10-4、pp. 193-198、2012. 3.

3. 学内運営

- ◆ 系や全学組織等の業務への貢献：
戦略室担当、学務・カリキュラム委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類 クラス担任（4年生）、授業評価・FD委員、学生委員
3専攻 カリキュラム委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動（役員/委員）
IFHP(International Federation of Housing and Planning) 理事
日本都市計画学会 学術委員会 副委員長
Urban Transport 2010 編集委員
交通工学研究会 学術委員

International Planning Studies 編集委員

日本モビリティ・マネジメント会議 理事

土木学会 交通まちづくりの実践研究小委員会 副代表、制度設計部会長

◆ 学外から委嘱された委員、兼業など

内閣府 「今後の跡地利用施策の展開方策に関する検討委員会」委員

国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画制度小委員会」委員

国土交通省 「交通施策の計画的な推進に関する検討会」委員

国土交通省 「持続可能な国土管理指標研究会」委員

国土交通省 「地質・地盤等情報の整備・公開に関する検討会」委員

国土交通省 「先導的都市環境形成促進事業に係るアドバイザリー会議」委員

環境省 「中長期ロードマップ調査 地域づくりWG」委員

環境省 「中長期ロードマップ調査 土地利用・交通SWG」委員

環境省 「クレジットメカニズム支援委員会」構成員

環境省 「交通低炭素化技術開発分野分科会」委員

国土交通省中国地方整備局 「明日の旭川を語る会」委員

埼玉県 「埼玉県都市計画審議会」委員長

京都府 「京都府広域交通インフラ検討委員会」委員

茨城県 「まちづくりシンポジウム2011」講師

倉敷市 「倉敷市地域公共交通会議」議長

つくば市 「つくば総合都市交通体系検討委員会」委員長

つくば市 「つくば市公共空間活用検討会」委員長

運輸政策研究機構(財) 「鉄道プロジェクトの評価手法マニュアル改訂に関する調査検討委員会」委員

計量計画研究所(財) 「都市計画における集約型都市構造化の取り組みに関する検討調査業務」アドバイザー

計量計画研究所(財) 「道路交通センサスに関する懇談会」委員

都市づくりパブリックデザインセンター(財) 「都市型コミュニティのあり方とまちづくり政策研究会」委員

他

氏 名	張 勇兵	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻	専任	
	経営・政策科学専攻	専任	
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	無線通信システム、分散情報処理、性能評価		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 経営工学情報実習／情報ネットワーク／情報技術実験／社会工学実習／社会工学における戦略的思考・理論・実験

大学院 情報ネットワーク特論

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／社会システム工学専攻 3人／経営・政策科学専攻 3人／研究生 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

平成23～25年（2011-2013） 科学研究費基盤（A）「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」 代表：高木英明 金額：13,800千円（H23）

平成 21-23 年度（2009-2011） 科学研究費基盤（C） 「無線メッシュネットワークにおけるスループットの最大化とフローの公平性に関する研究」 代表：張勇兵 金額：800千円

◆ 学会発表等：

- [1] Y. Tao and Y. Zhang: Hierarchical Flow Balancing Protocol for Data Aggregation in Wireless Sensor Networks, *Proc. IEEE Computers, Communications and IT Applications Conf. (ComComAp 2012)*, 6 pages, Hong Kong (Jan. 2012).
- [2] 倉田久, 生稲史彦, 岡田幸彦, 高木英明, 張勇兵, 繁野麻衣子, 吉瀬章子: サービスカイゼン研修のカイゼン: 筑波大学公開講座の事例より、日本経営工学会平成23年度秋季研究大会、平成23年11月.
- [3] 宮原直紀, 張勇兵, 繁野麻衣子, 塚本一也: GPSタクシー配車履歴データの可視化およびその分析、情報処理学会情報システムと社会環境研究発表会、2012年3月.
- [4] 蔡文靜, 金夕雯, 萱野聡, 宮原直紀, 李灌竹, 繁野麻衣子, 譚成鵬, 塚本一也, 韋慶娜, 張勇兵: GPS配車管理システムデータによるタクシー顧客利用分析事例、オペレーションズリサーチ学会2012年春季大会、2012年3月.

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報工学研究科情報環境委員会委員、第3学群サブネット委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
- | | |
|---------------|----------------------------|
| 社会工学類 | コンピュータ委員会委員長、4年生クラス担当、学生委員 |
| 経営・政策科学専攻 | 文修サテライト運営委員社会 |
| システム・マネジメント専攻 | コンピュータ委員会委員長 |

4. 学外での社会貢献

Associate Editor (2007~), Journal of Peer-to-Peer Networking and Applications, Springer.

Program Committee, Int. Conf. Frontier of Comput. Sci. & Technology, Changsha, China, November 16-18, 2011.

Program Committee, Wireless Networking Symp., IEEE Int. Conf. Communications (ICC2011), Kyoto, Japan, June 5-9, 2011.

Program Committee, IEEE Int. Conf. Computer Communications (INFOCOM2011), Shanghai, China, April 10-15, 2011.

Program Committee, International Conference on Communications and Mobile Computing (CMC 2011), Qingdao, China, April 18-20, 2011.

氏 名	辻 爾志	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻	専任	
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻 経営・政策科学専攻	専任 専任	
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	ファイナンス・インベストメント、アセット・プライシング、コーポレート・ファイナンス、フィナンシャル・リスク・マネジメント、行動ファイナンス		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 ファイナンス／財務会計学
 - 大学院 ファイナンス／コーポレート・ファイナンス
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 2 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 基盤研究（C）「行動コーポレート・ファイナンスに関する理論と実証」（研究代表者）
 - 研究助成金 日本証券奨学財団 「行動ファイナンスの観点からの日本企業の配当政策に関する実証研究」（研究代表者）
- ◆ 著書・論文等：
 - Chikashi TSUJI (2012) A Modeling of the Relationships between the Yen/US Dollars Rates and Equity Prices: The Industry Cases of Japan, *Annual Report on the Multi Use Social and Economic Data Bank*, 89, 53-68.
 - Chikashi TSUJI (2012) Positive Return Premia in Japan, *Quantitative Finance*, 12(3), 345-367.
 - Chikashi TSUJI (2012) A Discussion on the Signaling Hypothesis of Dividend Policy, *The Open Business Journal*, 5, 1-7.
 - Chikashi TSUJI (2011) An International Survey of the Evidence on the Pecking Order Theory of Corporate Financing, *Business and Economic Research*, 1, E1.
 - Chikashi TSUJI (2011) A Survey of the Trade-off Theory of Corporate Financing, *Business and Management Review*, 1, 102-107.
 - Chikashi TSUJI (2011) Recent Development of the Agency Theory and Capital Structure, *Economics and Finance Review*, 1, 94-99.
 - Chikashi TSUJI (2011) Exploring the Priced Factors in ICAPM in Japan, *Modern Economy*,

2, 701-705.

Chikashi TSUJI (2011) An Investigation of the ICAPM in Japan: Evidence from the Tokyo Stock Exchange with a Review of International and Accounting Research, *International Journal of Accounting and Financial Reporting*, 1(1), 18-28.

Chikashi TSUJI (2011) A Test of Dividend Policy: The Case of the Japanese Machinery Industry Firms, *International Journal of Economics and Finance*, 3(3), 119-130.

Chikashi TSUJI (2011) A Test of Relations between Japanese Industry Stock Prices and Exchange Rates, *International Journal of Humanities and Social Science*, 1(8), 50-53.

Chikashi TSUJI (2011) An Investigation on the Monetary Policy and Short-term Interest Rates in Japan, *Journal of Public Administration and Governance*, 1(1), 64-70.

Chikashi TSUJI (2011) Stock Prices and Exchange Rates: The Cases of the Japanese Banking Industry and Machinery Industry, *Economics and Finance Review*, 1(3), 41-45.

Chikashi TSUJI (2011) An Investigation on the Dynamics of Industry Stock Prices and Exchange Rates in Japan, *Business and Management Review*, 1(3), 1-4.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学データバンク 委員，理工学群長選挙管理委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類 クラス担任（2年生），学生委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ The Open Business Journal, Editorial Advisory Board
- ◆ 日本経済学会 2011 年度秋季大会 運営委員
- ◆ 日本証券アナリスト協会 検定会員

氏 名	堤 盛人	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻		専任
	経営・政策科学専攻		専任
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	応用空間統計学，土木計画学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 線形代数Ⅱ・プロジェクトの評価とファイナンス・都市計画マスタープラン策定
実習（共同）・東京の都市学（分担）・都市構造論（分担・責任者）

大学院 プロジェクト評価論・プロジェクト評価演習
- ◆ 指導学生数：

社会工学類 1人 社会システム工学専攻 4人
社会システム・マネジメント専攻 2人
- ◆ 学類卒業生，博士前期・後期課程修了生の氏名と論文題目

社会工学類
島田 翔平：「筑波大学における室内気候の実態とその改善のための事業手法に関する研究」

社会システム工学専攻
嶋田 章：「行政投資実績を活用した市町村別社会資本ストックの推計」
- ◆ 学生の受賞：

平成 23 年 5 月 瀬谷創 平成 22 年度土木学会論文賞（堤と共同受賞）

平成 23 年 11 月 爲季和樹 2011 年度 S-plus 学生研究奨励賞優秀賞（賞金 5 万円）「空間従属性を考慮した重力モデルの理論的発展」

平成 24 年 2 月 嶋田章 平成 23 年度都市計画同窓会賞最優秀賞（修士論文）「行政投資実績を活用した市町村別社会資本ストックの推計」

平成 24 年 3 月 嶋田章 筑波大学大学院システム情報工学研究科社会システム工学専攻表彰

平成 24 年 3 月 爲季和樹 筑波大学大学院システム情報工学研究科長表彰

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金・基盤研究(B) 『空間従属性を考慮した新たな面補間法の開発とその実用化』（代表）

科学研究費補助金・基盤研究(A) 『地理情報科学と都市工学を融合した空間解析手法の

新展開』(分担 <代表:鈴木 勉>)

科学研究費補助金・基盤研究(B) 『エクメーネ・リサーチエンスの新体系構築』(分担 <代表:谷口 守>)

科学研究費補助金・基盤研究(C) 『休日交通の時空間分布推計システムの構築』(分担 <代表:岡本 直久>)

平成 22 年度シンフォニカ統計 GIS 研究助成 『空間計量経済学モデルを用いた面補間法の実用化に関する研究』(代表)

株式会社タス 奨学寄附金 『不動産証券化サービスに関する研究』

◆ 著書・論文等:

i) 著書

1) 堤 盛人:第 9 章第 8 節「空間的相関」,松原 望・美添 泰人・岩崎 学・金 明哲・竹村 和久・林 文・山岡 和枝 編,『統計応用事典』,pp.616-617,丸善,2011.

2) Hajime Seya and Morito Tsutsumi: Application of Model Averaging Techniques to Spatial Hedonic Land Price Models, Santiago A. Mendez and Ana Maria Vega Eds., Econometrics: New Developments, NOVA, 2012.

ii) 査読付き論文

1) 村上大輔・堤盛人:「最短経路距離の関数として共分散関数を定義した Kriging」,『GIS—理論と応用』,Vol. 19, No. 1, pp. 25-35, 2011.

2) 瀬谷創・堤盛人・吉田靖・川口有一郎:「空間的自己相関を考慮した不動産賃料の空間予測モデルに関する実証比較分析」,『ジャレフ・ジャーナル(不動産ファイナンス・不動産経済学研究)』,No. 5, pp. 1-21, 2011.

3) 山形与志樹・村上大輔・瀬谷創・堤盛人・川口有一郎:「環境性能評価が不動産価格に与える影響の時空間波及分析」,『ジャレフ・ジャーナル(不動産ファイナンス・不動産経済学研究)』,No. 5, pp. 23-39, 2011.

4) Hajime Seya, Morito Tsutsumi and Yoshiki Yamagata: Income convergence in Japan: A Bayesian spatial Durbin model approach, Economic Modelling. Vol. 29, Issue 1, pp. 60-71, 2012.

5) 村上大輔・堤 盛人:「Kriging を用いた実用的な面補間法」,『GIS—理論と応用』,Vol. 19, No. 2, pp. 59-69, 2011.

6) Morito Tsutsumi and Kazuki Tamesue: Intraregional Flow Problem in Spatial Econometric Model for Origin-Destination Flows,Procedia Social and Behavioral Sciences, Vol.21, pp.184-192, 2011.*

7) Daisuke Murakami and Morito Tsutsumi:A New Areal Interpolation Method Based on Spatial Statistics,Procedia Social and Behavioral Sciences, Vol.21, pp.230-239, 2011.

8) Hajime Seya, Morito Tsutsumi, Yasushi Yoshida, Yuichiro Kawaguchi:Empirical

Comparison of the Various Spatial Predication Models: In Spatial Econometrics, Spatial Statistics, and Semiparametric Statistics, Procedia Social and Behavioral Sciences, Vol.21, pp.120-129, 2011.

9) Morito Tsutsumi, Akira Shimada and Daisuke Murakami: Land Price Maps of Tokyo Metropolitan Area, Procedia Social and Behavioral Sciences, Vol.21, pp.193-202, 2011.

10) 村上大輔・堤 盛人:「固有ベクトル空間フィルタリングに基づく面補間」,『土木学会論文集』, Vol. 68, No. 1, pp.59-69, 2012.

11) 瀬谷創・堤 盛人・山形与志樹:「Weighted-Average Least Squares の空間計量経済モデルへの拡張」,『応用地域学研究』, 第 16 号, pp.43-54, 2012.

iii) 解説論文

1) 堤盛人・瀬谷創:「便益計測への空間ヘドニック・アプローチの適用」,『測量』, Vol. 61, No. 11, pp.14-16, 2011.

iv) その他 (寄稿)

1) 堤盛人:「建設関連業の課題と展望が意味することとは」, 設立 50 周年記念誌 明日に向かって, 社団法人 全国測量設計業協会連合会, pp.54-55, 2012.

◆ 学会発表等:

1) 奈良岡浩二・神野靖夫・鈴木 誠・宮下将尚・堤 盛人:「都心 3 区を対象とした賃貸オフィスの募集賃料分析」, 2011 年度日本建築学会大会 (関東) 学術講演会・建築デザイン発表会, 8 月 24 日, 早稲田大学 (講演番号 8061)

2) 村上大輔・堤盛人:「異方性のある空間的相関を考慮した面補間法」『日本写真測量学会 平成 23 年度 年次学術講演会 発表論文集』, pp.93-96, 2011.

3) 為季和樹・堤盛人:「空間的相関に着目した我が国の所得格差の分布と変化の考察」『日本写真測量学会 平成 23 年度 年次学術講演会 発表論文集』, pp.89-92, 2011.

4) Daisuke Murakami and Morito Tsutsumi: Considering spatial dependence in areal interpolation method based on eigenvector spatial, presented at the Japan Geoscience Union Meeting 2011, Makuhari Messe International Conference Hall, Chiba, Japan, 25 May 2011. (" H-TT (Human Geosciences(H) / Technology & Techniques(TT)) " 005 GIS) (講演番号: HTT005-P001)

5) Kazuki Tamesuend Morito Tsutsumi: Visualizing income disparity in Japan with spatial statistic methods, presented at the Japan Geoscience Union Meeting 2010, Makuhari Messe International Conference Hall, Chiba, Japan, 25 May 2011. (" H-TT (Human Geosciences(H) / Technology & Techniques(TT)) " 005 GIS) (講演番号: HTT005-P002)

6) 堤盛人・為季和樹:「空間従属性を考慮した重力モデルにおける内々フロー問題」,『土木計画学研究・講演集』, Vol. 43, (CD-ROM 講演番号: 343), 2011.

- 7) 爲季和樹・堤盛人：「フロー間の空間的相関を考慮した負の二項重力モデル」,『土木計画学研究・講演集』, Vol. 43, (CD-ROM 講演番号：344), 2011.
- 8) 村上大輔・堤盛人：「固有ベクトル空間フィルタリングに基づく面補間」,『土木計画学研究・講演集』, Vol. 43, (CD-ROM 講演番号：345), 2011.
- 9) 瀬谷創・堤盛人：「関数データ解析への空間統計モデルの援用」,『土木計画学研究・講演集』, Vol. 43, (CD-ROM 講演番号：347), 2011.
- 10) 山形与志樹・瀬谷創・村上大輔・堤盛人：「不動産の環境性能評価の時空間波及効果に関する実証分析」,『土木計画学研究・講演集』, Vol. 43, (CD-ROM 講演番号：348), 2011.
- 11) Daisuke Murakami and Morito Tsutsumi: Areal interpolation using Bayesian spatial econometrics, presented at the Fifth World Conference of the Spatial Econometrics Association, Toulouse, France, 6-7 July 2011.
- 12) Kazuki Tamesue and Morito Tsutsumi: Modeling spatial dependence in origin-destination flows based on a negative binomial gravity model, presented at the Fifth World Conference of the Spatial Econometrics Association, Toulouse, France, 6-7 July 2011.
- 13) Hajime Seya, Morito Tsutsumi and Yoshiaki Yamagata: Applying weighted-average least squares for spatial econometric model, presented at the Fifth World Conference of the Spatial Econometrics Association, Toulouse, France, 6-7 July 2011.
- 14) Yoshiaki Yamagata, Hajime Seya, Daisuke Murakami and Morito Tsutsumi: Hedonic analysis of environmental factors and disaster risk using a multi-level spatial econometric model, presented at the Fifth World Conference of the Spatial Econometrics Association, Toulouse, France, 6-7 July 2011.
- 15) Morito Tsutsumi and Kazuki Tamesue: Intraregional Flow Problem in Spatial Econometric Model for Origin-Destination Flows, presented at the Spatial Thinking and Geographic Information Sciences, Tokyo, Japan, 14-16 September 2011. (Procedia Social and Behavioral Sciences, Vol.21, pp.184-192, 2011.)
- 16) Daisuke Murakami and Morito Tsutsumi: A New Areal Interpolation Method Based on Spatial Statistics, presented at the Spatial Thinking and Geographic Information Sciences, Tokyo, Japan, 14-16 September 2011. (Procedia Social and Behavioral Sciences, Vol.21, pp.230-239, 2011.)
- 17) Hajime Seya, Morito Tsutsumi, Yasushi Yoshida, Yuichiro Kawaguchi: Empirical Comparison of the Various Spatial Predication Models: In Spatial Econometrics, Spatial Statistics, and Semiparametric Statistics, presented at the Spatial Thinking and Geographic Information Sciences, Tokyo, Japan, 14-16 September 2011. (Procedia Social and Behavioral Sciences, Vol.21, pp.120-129, 2011.)
- 18) Morito Tsutsumi, Akira Shimada and Daisuke Murakami: Land Price Maps of Tokyo

Metropolitan Area, presented at the Spatial Thinking and Geographic Information Sciences, Tokyo, Japan, 14-16 September 2011. (Procedia Social and Behavioral Sciences, Vol.21, pp.193-202, 2011.)

19) 爲季和樹・堤盛人・山形与志樹：「日本の市町村単位での所得格差の空間分析」,『地理情報システム学会講演論文集』, Vol. 20, 5C-3, (CD-ROM), 2011.

20) 堤盛人・瀬谷創：「土木計画における応用空間統計学の可能性」『土木計画学研究・講演集』, Vol. 44, (CD-ROM 招待講演：2), 2011.

21) 山形与志樹・村上大輔・瀬谷創・堤盛人：「分位点回帰モデルを用いた緑地の集塊性とマンション価格の分析」『土木計画学研究・講演集』, Vol. 44, (CD-ROM 講演番号：318), 2011.

22) 瀬谷創・山形与志樹・中道久美子・堤盛人：「CUE 型住宅立地モデルを用いた広域都市圏における水害脆弱性評価」『土木計画学研究・講演集』, Vol. 44, (CD-ROM 講演番号：331), 2011.

23) 瀬谷創・堤盛人・山形与志樹：「空間パネルを用いた確率的フロンティアモデルのパラメータ推定」, 第 25 回応用地域学会, 12 月 3 日～4 日, 2011, 富山大学.

24) 村上大輔・山形与志樹・瀬谷創・堤盛人：「空間統計手法による東京都市圏の業務集積地の抽出」, 第 25 回応用地域学会, 12 月 3 日～4 日, 2011, 富山大学.

25) 山形与志樹・村上大輔・瀬谷創・堤盛人：「緑地の集塊性が不動産価格に与える影響の分析：分位点回帰モデルを用いたアプローチ」, 日本不動産金融工学学会, 2 月 25 日, 2012, 早稲田大学大学院ファイナンス研究科 (コレド日本橋) (大会予稿集 pp. 51-63).

26) 瀬谷創・山形与志樹・村上大輔・堤盛人：「説明変数の内生性を考慮した空間ラグモデルを用いたヘドニック・アプローチによる洪水リスク評価」, 日本不動産金融工学学会, 2 月 25 日, 2012, 早稲田大学大学院ファイナンス研究科 (コレド日本橋) (大会予稿集 pp. 85-104).

◆ その他：

2011 年 5 月 平成 22 年度土木学会論文賞 (堤盛人・瀬谷創：「便益計測への空間ヘドニック・アプローチの適用」,『土木学会論文集』, Vol. 66, No. 2, pp. 178-196, 2010.)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

全学 学生担当教員

システム情報工学研究科 広報委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：

3 専攻合同 広報委員長・図書委員・戦略企画室 (MPP 改善)

社会工学類 学生担当・学園祭委員会委員・広報委員

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動（役員/委員，論文査読等）

- 1) 日本写真測量学会 理事
- 2) 日本写真測量学会 学術講演会 実行委員会 委員長
- 3) 日本不動産金融工学学会 評議員
- 4) 土木計画学研究委員会土木計画学・学術小委員会委員
- 5) 査読委員/査読者：土木学会論文集，土木計画学研究・論文集 No. 28，都市計画学会，都市住宅学会

◆ 社会的活動

- 1) 総務省「政策評価・独立行政法人評価委員会」 臨時委員
- 2) 国土地理院 総合評価委員会 委員
- 3) 国土交通省 地価公示標準地のあり方の検討委員会 委員
- 4) 国土交通省 用途規制の経済分析に関するワーキンググループ 委員
- 6) 環境省 平成 23 年度 地域づくり WG 土地利用・交通 SWG 委員
- 7) 茨城県 河川整備計画検討委員会 委員
- 8) 社団法人日本測量協会 評議員
- 9) 社団法人日本測量協会 「測量専門技術委員会」 委員

◆ その他兼業

株式会社タス 非常勤顧問

氏 名	中村 豊	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	理論経済学、数理心理学、意思決定理論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：社会工学類（微積分Ⅱ、意思決定論、暮らしのリスクと安心・安全な社会形成、社会工学における戦略的思考：理論、実験、および演習）、社会システム工学専（ミクロ経済学、意思決定理論）
- ◆ 指導学生数：社会工学類4年生（3人）、社会システム工学専攻2年生（2人）

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：挑戦的萌芽研究（近代効用理論における公理的基礎の再構築—統一的な公理体系の構築に向けて—）の初年度として、基礎的な研究を行い、その結果を Additive measurement on countable sets というタイトルでまとめているところである。また、選好が半順序である場合の期待効用理論の研究を始めている。その結果の一部を数理経済学研究センターで公表した。
- ◆ 著書・論文等：Multiple expected utility on finite sets. Discussion paper, 2011.
- ◆ 学会発表等：(1) Multiple expected utility on finite sets、数理経済学研究センター（慶応義塾大学三田キャンパス）、July 4, 2011.
(2) Geometric considerations of (non)-expected utility models、早稲田大学心理学教室、January 26, 2012.
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：システム情報工学研究科（学務・カリキュラム委員会委員）、教養教育機構会議委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：社会工学類（カリキュラム委員長、2学期制カリキュラム検討委員会）、3専攻合同委員会（カリキュラム委員）

4. 学外社会貢献

- ◆ Journal of Mathematical Psychology の action editor
- ◆ 心理学評論、Journal of Mathematical Psychology の査読

氏 名	永易淳	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻	専任	
	経営・政策科学専攻	専任	
	経済学専攻	兼任	
担当学類	専 社会工学類	兼	国際総合学類
研究分野	経済学，ファイナンス		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 国際金融論、経済政策分析、経済学入門 III、グローバル・エリア演習
大学院 国際金融論

◆ 指導学生数：

社会工学類 2 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤 (C)「外国為替市場におけるリスクから考察した伝播効果」(代表)

科学研究費 基盤 (B)「グローバル危機とアジア経済」(分担)

全国銀行学術研究振興財団「ダイナミック・ファクター・モデルによる国内金融市場統合の分析」(代表)

筑波大学「巨大地震による複合災害のリスクマネジメント」プロジェクト (分担)

データバンク (分担)

◆ 著書・論文等：

査読付学術雑誌

[1] Heterogeneity and convergence of regional inflation (prices), 2011, *Journal of Macroeconomics* Vol. 33(4)12 月, 711-723 単著

[2] The common component in forward premiums: evidence from the Asia-Pacific Region, 2011, *Review of International Economics* Vol. 19(4)8 月, 750-762 単著

[3] The threshold consumption correlation-based approach to international capital mobility: evidence from advanced and developing countries, 2012 (近刊) *Structural Change and Economic Dynamics* 単著

[4] Common factors of the exchange risk premium in emerging European markets, 2012 (近刊) *Bulletin of Economic Research* 共著 J. Byrne

[5] A dynamic factor approach to domestic capital mobility, 2012 (近刊) *Empirical Economics* 単著

[6] Financial innovation and regional money, 2012(近刊) *Applied Economics* 単著

[7] Regional deposits and demographic changes, 2012 (近刊) *Applied Economics Letters* 単著

[8] Economic factors contributing to time-varying conditional correlations in stock returns, 2011, *日本ファイナンス学会Proceedings*.
ワーキングペーパー

[9] Regional inflation and industrial structure in monetary union, 2012 MPRA Paper 37310, University Library of Munich, Germany.

◆ 学会発表等：

3rd Osaka Workshop on International Economics 大阪 Regional inflation and industry structure 2012.02

日本経済学会 筑波大学 The threshold consumption correlation-based approach to international capital mobility: evidence from advanced and developing countries 2011.10

日本経済学会 熊本学園大学 Heterogeneity and convergence of regional inflation (prices) 2011.05

日本金融学会 明治大学 A dynamic factor approach to domestic capital mobility 2011.05

日本ファイナンス学会 早稲田大学 Economic factors contributing to time-varying conditional correlations in stock returns 2011.05

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

データバンク委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

図書委員長、学類運営委員、教育図書委員

4. 学外の社会貢献

◆ 学外活動

独立行政法人経済産業研究所(RIETI) 研究評価外部員

国際協力銀行(JBIC、政府系金融機関) コンサルタント

Economics Division, Stirling University(英国)客員研究員

◆ 学会活動

日本経済学会秋季大会実行委員

◆ 査読

Economic Modelling, Empirical Economics, Scottish Journal of Political Economy など

氏 名	橋本 昭洋	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	社会システム，システム評価決定論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
社会工学類 評価と決定／線形代数 I／戦略行動システム演習／プログラミング実習
社会システム工学専攻／経営・政策科学専攻 システム評価論
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 1 人／社会システム工学専攻 1 人／社会システム・マネジメント専攻 1 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 基盤研究(C) 「国の安定性の量的評価：冷戦終結前後の実証分析」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
Tsuneyoshi, T., Hashimoto, A. and Haneda, S., Quantitative evaluation of nation stability. *Journal of Policy Modeling* **34**(1), 132-154, 2012.
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：
Biographee Marquis Who's Who in the World 2011 (28th ed.)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報工学研究科 研究者倫理検討委員会委員長
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社シマ・社シス・経政 3 専攻 運営委員，防災隊委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ レビューア

Industrial and Corporate Change, Research Policy

- ◆ 独立行政法人 物質・材料研究機構 契約監視委員会委員長

氏 名	八森 正泰	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻 専任 経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	離散数学、組合せ論、トポロジー的組合せ論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 情報リテラシー／社会工学実習／シミュレーション／情報技術実験
／問題発見と解決

大学院前期課程 実解析／ビジネス数学

◆ 指導学生数：

社会システム・マネジメント専攻 1名（＋研究生1名）

社会システム工学専攻 1名（＋研究生2名）

社会工学類 （研究生1名）

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 若手研究 (B)「単体的複体の部分構造および極小反例に基づく位相幾何学的組合せ論の研究」(代表)

科学研究費 基盤研究 (C)「ネットワーク構造解析アルゴリズムの開発とネットワークアルゴリズムの総合的展開」(分担、代表：繁野麻衣子)

科学研究費 基盤研究 (C)「錐最適化における新たなパラダイム：二重非負行列錐上の最適化とソフトウェアの開発」(分担、代表：吉瀬章子)

◆ 著書・論文等：

Masahiro Hachimori and Kenji Kashiwabara, Obstructions to shellability, partitionability, and sequential Cohen-Macaulayness, Journal of Combinatorial Theory, Series A 118 (2011), 1608-1623.

Reiko Takehara, Masahiro Hachimori, and Maiko Shigeno, A comment on pure-strategy Nash equilibria in competitive diffusion games, Information Processing Letters 112 (2012), 59-60.

◆ 学会発表等：

日本数学会 2011 年度秋期総合分科会 特別講演「単体的複体の shellability および関連する性質の階層」, 信州大学, 2011 年 9 月 28-10 月 1 日. (日本数学会 2011 年度年会(早稲田大学, 2011 年 3 月 20-23 日)で予定されていたものが震災で延期になったもの。)

組合せ論サマースクール 2011 (COS2011) 「Obstruction to shellability と pure-skeleton」, 仙台・ホテル瑞鳳, 2011 年 10 月 4-7 日.

Japan Conference on Discrete and Computational Geometry (JCDCG2011), “Pure skeletons of obstructions to shellability”, 東海大学代々木キャンパス, 2011 年 11 月 28-29 日.

日本数学会 2012 年度年会 一般講演「Strong obstructions to shellability の pure 2-skeleton」, 東京理科大学, 2012 年 3 月 26-29 日.

◆ その他 :

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :

システム情報工学研究科 企画室委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :

学類 カリキュラム委員 (+ 二学期制検討)、非常勤講師審査委員、
障害学生支援室連絡窓口委員

4. 学外の社会貢献

◆ 組合せ論サマースクール 2011 (COS2011) 実行委員

◆ 組合せ数学セミナー (COMA ゼミ) 幹事

◆ JCCA メーリングリスト 管理

◆ 「数学セミナー」誌 (日本評論社) 書評委員

氏 名	原田 信行	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻 専任 経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	中小企業経済学、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 統計Ⅰ／金融論
 - 大学院 応用計量経済学演習／特定課題研究
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3名
 - 経営・政策科学専攻 3名
 - 社会システム・マネジメント 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 若手研究（B）「縮小経済のもとでの中小企業と企業家活動」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
 - 原田信行（2011）「大学発ベンチャーの成長とベンチャーキャピタル」、忽那憲治編著・日本証券経済研究所編『ベンチャーキャピタルによる新産業創造』第6章、pp. 126-142、中央経済社
 - Harada Nobuyuki and Hitoshi Mitsuhashi, (2011) “Academic Spin-offs in Japan: Institutional Revolution and Early Outcomes”, in Usui Chikako (ed.) Comparative Entrepreneurship Initiatives: Studies in China, Japan and the USA, Chapter 6, pp. 138-163, Palgrave Macmillan

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 大学院広報委員会委員
 - 経営・政策科学専攻特定課題研究改善ワーキンググループ
 - 社会工学類カリキュラム委員会委員ほか

氏 名	藤井 さやか	職 名	講師
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻	専任	
	経営・政策科学専攻	専任	
	環境科学専攻	兼任	
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	都市計画、土地利用計画、まちづくり法制、住環境整備		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市・地域・環境を語るⅠ・Ⅱ・Ⅲ／住まいと居住環境の計画／都市計画事例講義及び実習／アメニティ創造のまちづくり実習／4年生担任／総合演習－社会システム分析－／総合科目・Japic連携リレー講義「グローバル時代のトップランナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」
大学院前期課程 都市空間のフィールドワーク演習／国際交流ワークショップⅠ／都市開発プロジェクト・マネジメント／都市環境原論／大学院共通科目・Japic連携リレー講義「グローバル時代のトップランナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」

◆ 指導学生数：

社会工学類 2名
社会システム工学類 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

平成 23-25 年度科学研究費・基盤研究（B）・「都市プランナーの職能・専門性の変容と再構築に関する国際比較研究」研究分担者（研究代表者・有田智一）
平成 22-24 年度科学研究費・基盤研究（C）・「協調・契約型都市再生手法に関する日独比較研究」研究分担者（研究代表者・大村謙二郎）
平成 21-23 年度科学研究費・基盤研究（C）・「200 年住宅地を目指した街づくりシステムの研究」（21560627）研究分担者（研究代表者・小場瀬令二）481 万円
平成 22-24 年度 日本都市計画学会・共同研究組織「計画制度研究会」研究分担者（研究代表者・大方潤一郎） 50 万円
平成 22-23 年度 インテル株式会社 奨学寄附金 「高齢社会における ICT を活用したまちづくり」研究代表者 450 万円
平成 23 年度 学術指導経費 つくば市都市計画課「つくば市地域まちづくり活動への支援に関する学術指導」研究代表者 44 万円
平成 23 年度「筑波大学・ドイツ学術交流会（DAAD）パートナーシップ・プログラム（派遣）」研究代表者 80 万円

平成 23 年度筑波大学社会貢献プログラム（第 1 期）「農業活性化のための産官学民連携体制の構築と地域貢献事業の試験的実践」研究代表者 30 万円

平成 22-23 年度筑波大学革新的研究等支援プログラム（パイロットモデル）「学生協働・地場連携による筑波大学キャンパス・リノベーションーグリーン・イノベーションとライフ・イノベーションの融合ー」研究協力者（研究代表者・大澤義明）

◆ 著書・論文等：

工藤はるな・藤井さやか・渡辺俊（2012）「東日本大震災時のつくば市内における情報伝達の地区的差異」2011 年度日本建築学会関東支部研究報告集. pp.（確認中）

藤井さやか（2011）「計画的住宅地は持続可能か？（建築社会システムのあり方特別研究研究協議会）2011 年度日本建築学会大会（関東）報告. 建築雑誌 126(1620). p87. 社団法人日本建築学会.

藤井さやか・阪口将太（2011）「計画的住宅地の高齢化に対応した地区計画見直しの方向性」日本建築学会持続可能な都市住宅地を実現する建築社会システムのあり方特別研究委員会編『計画的住宅地は持続可能か？』研究協議会資料集. pp. 51-54.

藤井さやか・佐々木亮輔（2011）「商店街における協議調整を通じた空間マネジメントの可能性と課題」日本建築学会建築法制委員会協議調整型ルール検討小委員会編『裁量性基準の可能性 - 協議調整ルールにおける審査基準のあり方 - 』研究協議会資料集. pp. 56-59.

◆ 学会発表等：

工藤はるな・藤井さやか・渡辺俊（2012）「東日本大震災時のつくば市内における情報伝達の地区的差異」2011 年度日本建築学会関東支部研究報告集. pp.（確認中）

◆ その他：

基調講演及びパネリスト. 「大震災発生。その時、私たちの生活を支えた IT 技術 ～つくば市民 1200 人の声から～」 TX テクノロジーショーケース in つくば 2012・ミニシンポジウム『パラダイムシフトを呼ぶ科学・技術—つくばからの発信—』2012 年 1 月 13 日. つくば国際会議場.

招待講演. 「長寿都市如皋市の持続的発展に向けて：日本の課題から学ぶ」 2011 年国際長寿研究討論会. 2011 年 11 月 15 日. 中国江蘇省如皋市役所.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

全学 教育企画室室員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

専攻 就職委員会委員

学類 卒業記念論文集編集委員会委員長／4 年生担任／就職委員会委員

その他 三菱地所との連携協定更新／国土交通省住宅局との連携協定更新／ルール大学ボーfumとの国際交流協定更新

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動

日本建築学会 建築社会システムのあり方特別研究委員会委員（関東 WG 幹事）／住環境マネジメント小委員会委員

日本都市計画学会 学術委員会委員／国際委員会委員

都市住宅学会 編集委員会委員

◆ 査読実績

日本建築学会 査読 2 本

日本都市計画学会 査読 2 本／査読結果とりまとめ 20 本／国際論文査読結果とりまとめ（英語論文）16 本

首都大学東京紀要都市科学研究 査読 1 本

◆ 講師等

招待講演. 「まちの魅力発見マップをつくろう！」つくば市つくばまちづくり実践講座. 2012 年 2 月 25 日. つくば市役所.

研修講師. 「Urban District Planning -地区計画-」JICA The Project for Urban Planning and Development in Damascus Metropolitan Area (DMA-UPD). 2012 年 1 月 25 日. 筑波大学.

研修講師. 「墨田区のまちづくりへの提案：大学院生のまちづくり演習の成果から」墨田区都市計画部職員研修. 2011 年 12 月 2 日. 墨田区役所.

講師. 「市民主体のまちづくりの実践」筑波大学重点公開講座『持続可能な 21 世紀型都市の計画学』. 2011 年 12 月 2 日. 筑波大学東京キャンパス.

◆ 学外委員

日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）日本創生委員会 W-table 小委員会委員

財団法人 東京都防災・建築まちづくりセンター 理事

非特定営利法人 つくばアグリチャレンジ（ごきげんファーム） 役員

墨田区 建築審査会委員／都市計画審議会高度地区特例の認定及び許可に係る専門部会臨時委員

板橋区 都市計画審議会委員／都市計画審議会最高限度高度地区等検討部会 委員

柏市 建築審査会委員／紛争調停委員会 委員

さいたま市 都市計画審議会委員／持続可能な都市形成に関する検討委員会委員

浦安市 都市計画マスタープラン検討委員会委員／地域地区等検討調査意見交換会委員

八潮市都市計画審議会委員

三鷹市都市計画審議会委員

守谷市景観審議会委員

神奈川県土地収用事業認定審議会委員 等

氏 名	藤川 昌樹	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 持続環境学専攻		専任 兼担
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 環境科学専攻		専任 兼担
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	日本建築史・都市史、保全型都市計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市空間の歴史／まちづくりと空間設計の歴史と思想／アメニティ創造のまちづくり実習／東京の都市学

大学院 都市形成史／都市遺産論／環境計画史

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／社会システム工学専攻 5人

社会システム・マネジメント専攻 1人／生命環境科学研究科 持続環境学専攻 1人

生命環境科学研究科 環境科学専攻 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(B)「江戸藩邸作事における建設マネジメント手法に関する文理統合的研究」(代表)

科学研究費 挑戦的萌芽研究「北関東の町並みの建築的構成とその展開過程に関する研究」(代表)

科学研究費 基盤研究(A)「日本建築様式史の再構築」(分担)

科学研究費 基盤研究(C)「近代の橋本における製材と外材の流入」(分担)

科学研究費 基盤研究 (A)「東アジアにおける直物資源の高度循環利用に基づく居住環境の特性に関する研究」(分担)

科学研究費 基盤研究(A)「インドネシアの木造建築物保存に関する国際共同研究」

受託研究 「常陸太田市内における歴史的建造物調査」(代表)

◆ 著書・論文等：

日本建築学会編(2011)，2011 年東北地方太平洋沖地震災害調査速報，日本建築学会，全577 頁

藤川昌樹編(2011)，歴史的町並みの近代化と建築史研究，「日本建築史の再構築」連続シンポジウム報告書 5・東京大学

藤川昌樹(2012) (共著)：野村俊一・是澤紀子編，建築遺産 保存・再生の思考—災害・空間・歴史，東北大学出版会

藤川昌樹・高屋麻里子(2011)，萩藩江戸上屋敷式台建築の寛延度作事における建設マネジメント，日本建築学会計画系論文集，663，pp. 993-1101 査読付

不破正仁・藤川昌樹(2011)，栃木県都賀地域における北方系屋敷林の原型とその変容実態—明治期銅版画と現状との比較分析に基づいて，日本建築学会計画系論文集，666，pp. 1407-1414 査読付

◆ 学会発表等：

小山航・藤川昌樹(2011)，茨城県土浦市虫掛における農村集落の空間構成，日本建築学会大会学術講演梗概集，E分冊，pp. 615-616

不破正仁・藤川昌樹(2011)，関東地方における北方系屋敷林の樹木構成パターンとその特徴：栃木県都賀地域の現状調査と銅版画分析より，日本建築学会大会学術講演梗概集，E分冊，pp. 611-612

島田達成・藤川昌樹(2011)，大宮氷川神社参道の変容過程，日本建築学会大会学術講演梗概集，F-1分冊，pp. 763-764

山本英毅・藤川昌樹(2011)，常陸太田市鯨ヶ丘地区の構成と歴史的建造物の特性 その8 鯨ヶ丘の町家小屋裏に見られる墨書について，日本建築学会大会学術講演梗概集，F-2分冊，pp. 501-502

高屋麻里子・藤川昌樹(2011)，萩藩江戸上屋敷大書院の変遷，日本建築学会大会学術講演梗概集，F-2分冊，pp. 627-628

岡田脩一郎・野中勝利・藤川昌樹・不破正仁・佐藤未来(2011)，茨城県桜川市真壁地区の町並み模型制作とその意義，日本建築学会大会学術講演梗概集，F-2分冊，pp. 873-874

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

教育社会連携推進室員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会システム・マネジメント専攻 施設委員長

社会工学類

カリキュラム委員，施設委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動

建築史学会編集委員、家具・道具・室内史学会運営委員

日本建築学会・都市計画学会論文査読

- ◆ 学外から委嘱された委員
 - 室戸市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（高知県）
 - 茨城県景観審議会委員
 - つくば市都市景観審議会委員
 - 桜川市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員
 - 史跡真壁城跡整備検討委員会委員（桜川市）
 - 桜川市歴史的風致維持向上推進協議会会長
 - 土浦市文化財保護審議会委員
 - 土浦市都市計画審議会会長
 - 土浦市公共事業再評価委員会委員長
- ◆ 兼業
 - 東京大学大学院新領域創成科学研究科

氏 名	藤原 良叔	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	組合せ理論とその応用		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 情報リテラシー, プログラミング演習, 経営工学情報実習, シミュレーション,
情報技術実験, 暮らしのリスクと安心・安全な社会形成

大学院：実験数学

◆ 指導学生数：

社会工学類 0人 / 社会システム工学専攻 0人

社会システムマネジメント 0人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科研費, 基盤 (C) 多重構造を持った組合せ的デザインの統合と統一的構成法の研究

◆ 著書・論文等：

R. Fuji-Hara and Y. Miao , Multi-structured designs and their
applications , Information Security, Coding Theory and Related Combinatorics, NATO ,
IOS Press, Amsterdam

◆ 学会発表等：

- [1] R. Fuji-Hara , Constructions of Multi-Structured Designs, 2011 Taiwan-Japan
Conference of Combinatorics and its Applications, April 2 ~ April 4, 2011,
Tamkang University, Taiwan
- [2] R. Fuji-Hara A General Recursive Construction for Multi-Structured Designs,
The 10th International Conference on Finite Fields and Their Application,
July 11-15, 2011, Ghent, Belgium
- [3] R. Fuji-Hara General Recursive Constructions for Multi-Structured Designs
WilsonFest : a conference in honor of Rick Wilson, March 25-29, 2012, Caltech,
Pasadena CA, USA

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

4. 学外の社会貢献



氏 名	松原 康介	職 名	助 教
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻		専任
	経営・政策科学専攻		専任
担当学類	専 国際総合学類	兼	社会工学類
研究分野	歴史都市の保全、アジア・アフリカ地域の都市計画史		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

□学類 住まいと居住環境の計画／都市文化共生計画／総合科目・国際社会の持続可能な発展Ⅱ

□大学院 居住環境計画論

◆ 指導学生数：

□国際総合学類 3 年・3 名／国際総合学類 4 年・3 名

□社会工学類 4 年・1 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

□科学研究費 若手研究 (B)「国際交流を背景とした中東都市計画史研究と都市保全プロジェクトへの還元」（代表）

□東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究「中東都市社会における人間移動と多民族・多宗教の共存プロジェクト」（分担者）

□国際日本文化研究センター共同研究「仕掛けと概念：空間と時間の日仏比較建築論プロジェクト」（分担者）

◆ 著書・論文等：

□Kosuke Matsubara, "Urban Conservation based on The International Cooperation -A case study of the Qanawat south area, Damascus-", Proceedings of International Symposium on City Planning in Korea 2011, Gyeongju, 2011.

□松原康介「ダマスカス、カスル・ハッジヤージュ通りの原状復旧型ファサード改善に関する研究」都市計画論文集、2011 年 11 月、46-3 号、691-696 頁

◆ 学会発表等：

□Matsubara Kosuke, "Mosquée à la Ville Nouvelle", The 1st Morocco- Japan Symposium -Sustainable Society through advanced sciences, Abstracts Book, p.41, Marrakech, Mar.15-16, 2012.

□松原康介「内戦の記憶、津波の記憶—中東都市研究者、東北被災地を歩く—」、復興都市計画と魅力あるまちの姿研究会、えきまえ KOOKAN、福井、2012 年 3 月

◆ その他：

□松原康介「陸前高田市の過去の復興計画カルテ」国土交通省委託調査、2011 年.

□松原康介「陸前高田市 高地住宅は残った：半鐘が語る復興誌」歴史的観点から見た被災都市の検証および提言、東京大学 GCOE プロジェクトレポート、10-11 頁、2012 年.

□Multi-layered Basemap System for Middle Eastern Cities（中東都市多層データマップシステム <http://asp.netmap.jp/mebasemap/index.html>）：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・中東・イスラーム圏における人間移動と多元的社会編成プロジェクト発注：国際航業株式会社受注のシステム開発における、コンセプトメイキング及びシステムの基本的デザインを担当したもの。

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

□北アフリカセンター学内共同研究員

□学生担当委員（全学）

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

□学生担当室委員（学類）

4. 学外の社会貢献

◆ 日本都市計画学会国際委員

◆ 日本都市計画学会学術委員

◆ 日本建築学会論文査読委員

◆ 国際協力機構（JICA）ダマスカス首都圏都市計画・管理能力向上プロジェクト専門家

◆ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員

◆ 国際日本文化研究センター共同研究員

◆ 日仏東洋学会広報担当幹事

氏 名	繆 瑩	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	組合せデザイン理論、情報セキュリティ、情報通信、遺伝子情報解析		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 線形代数 I／線形代数 II／情報ネットワーク／社会工学実習
 - 大学院 情報セキュリティ管理
- ◆ 指導学生数：
 - 社会システム工学 1人
 - 社会システム・マネジメント専攻 1人
- ◆ その他：
 - 指導していた大学院後期課程学生の1人が学長表彰を受賞した。

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 基盤研究（C）「完全差集合とそのレーダー配列への応用に関する研究」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
 - [1] M. Cheng and Y. Miao, On anti-collusion codes and detection algorithms for multimedia fingerprinting, IEEE Transactions on Information Theory 57 (2011), 4843--4851.
 - [2] R. Fuji-Hara and Y. Miao, Multi-structured Designs and Their Applications, in: D. Crnkovic and V. Tonchev (Eds.), Information Security, Coding Theory and Related Combinatorics, IOS Press, Amsterdam, 2011, pp. 326--362.
- ◆ 学会発表等：
 - [1] Y. Miao, Bounds on the size of separable codes, WilsonFest: A Conference in Honor of Rick Wilson, California Institute of Technology, Pasadena CA, USA, March 25-29, 2012.
 - [2] Y. Miao, Anti-collusion codes and tracing algorithms for multimedia fingerprinting, School of Mathematical Sciences, Suzhou University, Suzhou, China,

September 13, 2011.

[3] Y. Miao, Anti-collusion codes and tracing algorithms for multimedia fingerprinting (I) and (II), Department of Mathematics, Zhejiang University, Hangzhou, China, September 8 and 10, 2011.

[4] Y. Miao, Anti-collusion codes and tracing algorithms for multimedia fingerprinting, College of Mathematical Sciences, Guangxi Normal University, Guilin, China, September 2, 2011.

[5] Y. Miao, Optimal separable codes from projective planes, The Tenth International Conference on Finite Fields and Their Applications, Ghent, Belgium, July 11-15, 2011.

[6] Y. Miao, On perfect difference families} (Invited talk), 2011 Taiwan-Japan Conference of Combinatorics and its Applications, Department of Mathematics, Tamkang University, Taipei, Taiwan, ROC, April 2-4, 2011.

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類 学生担当教員
大学院 FD 委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ Editor: Journal of the Indian Society of Agricultural Statistics, August 2009 -- present.
- ◆ Editor: Journal of Combinatorial Designs, John Wiley & Sons, January 2004 -- present.
- ◆ Editor: Graphs and Combinatorics, Springer, April 2002 -- present.

氏 名	村尾 修	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 社会システム・マネジメント専攻	専任 兼担	
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 社会システム工学専攻 経営・政策科学専攻	専任 兼担 兼担	
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	都市防災計画，都市復興計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

社会工学類 東京の都市学／アメニティ創造のまちづくり実習／都市防災計画／暮らしのリスクと安心・安全な社会形成／Introduction to Urban and Regional Planning
リスク工学専攻 リスク工学基礎／都市構造システム論／都市リスク分析演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人／社会システム工学専攻 1人／リスク工学専攻 4人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金基盤研究（B）「インド洋津波後の都市復興計画の検証と地球温暖化によるアジア都市の津波リスク評価」（研究代表者）

科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力（防災研究分野「開発途上国のニーズを踏まえた防災科学技術」領域）「ペルーにおける地震・津波減災技術の向上に関する研究」（研究協力者）

筑波大学東日本大震災復興支援プログラム「いわき市における震災復興活動のための学術的支援と自治体職員・住民を対象とした復興支援連続セミナー」（研究代表者）

概算要求特別経費（プロジェクト分）-大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実-「巨大地震による複合災害の統合的リスクマネジメント」（研究分担者）

前田記念工学振興財団「災害環境に対応した建築・都市デザインボキャブラリーの体系化」（研究代表者）

◆ 著書・論文等：

Shah, MD F., and Murao, O.: " Understanding Seismic Risk Recognition and Intention for Safety Measures of Residents in Dhaka, Bangladesh," Asian Journal of Environment and Disaster Management (AJEDM), Vol.3, No.3, 357-372,

doi:10.3850/S1793924011000915, 2011.9

杉安和也, 村尾修: 2004年インド洋津波によるインドネシア被災地の都市復興マスタープランの比較と建物復興曲線, 日本建築学会計画系論文集, 日本建築学会, Vol. 77, No. 673, 609-617, 2012.3

村尾修, 礪山星: 岩手県沿岸部津波常襲地域における住宅立地の変遷 ―明治および昭和の三陸大津波被災地を対象として―, 日本建築学会計画系論文集, 日本建築学会, Vol. 77, No. 671, 57-65, 2012.1

范麗霞, 村尾修: 中国における応急避難場所計画と北京市の建設状況の報告, 日本建築学会技術報告集, 日本建築学会, 第17巻36号, 681-686, 2011.6

Shah, MD F., and Murao, O.: "Determinant Factors of Urban Risk Recognition: Case of Residents in Dhaka," [Journal] 2011 International Symposium on City Planning -Preservation of Historic City and Planning-, pp. 335-344, Gyeongju, Korea, 2011.8

◆ 学会発表等:

村尾修: ハワイ島ヒロの津波復興計画, 再建への意志: 図面の中の都市復興, 建築雑誌, 日本建築学会, Vol. 127, No. 1628, 000, 2012.2

村尾修, 星知世, 古徳風空, 川崎拓郎: 記憶の街と夢の結晶プロジェクト ―被災者と子どもたちのための7つの物語―, 子どもが元気に育つまちづくり 東日本大震災復興プラン国際提案競技 「知恵と夢」の支援作品集, こども環境学会, 182-185, 2011.9

村上公哉, 村尾修: 対談 震災に強いまちづくりとエネルギーシステム, 熱供給, 日本熱供給事業協会, Vol. 80, 4-7, 2011.9

Murao, O., Sugiyasu, K., and Nakazato, H.: Study on Recovery Curves for Housing Reconstruction in Sri Lanka, Thailand, and Indonesia after the 2004 Indian Ocean Tsunami, Proceedings of the 10th International Symposium on New Technologies for Urban Safety of Mega Cities in Asia (USB), 8p., Chiang Mai, Thailand, 2011.10

Murao, O., and Isoyama, S. (invited speaker): Transition of Housing Location in Villages in Iwate Prefecture after the Sanriku Tsunamis in 1896 and 1933, Joint Conference Proceedings of 9th International Conference on Urban Earthquake Engineering (9CUEE) and 4th Asia Conference on Earthquake Engineering (4ACEE) (CD-ROM), 1877-1882, Tokyo, Japan, 2012.3

Shah, MD F., and Murao, O.: Structural Behavior of Residents Intention for Earthquake Safety Measures and Willingness to Pay, Joint Conference Proceedings of 9th International Conference on Urban Earthquake Engineering (9CUEE) and 4th Asia Conference on Earthquake Engineering (4ACEE) (CD-ROM), 1949-1956, Tokyo, Japan, 2012.3

シャー・エムディ・フォエズ, 村尾修: ダッカにおける住民の地震リスク認識と安全対策

傾向に関する調査報告，都市計画報告集 No. 10-1 (CD-ROM)，日本都市計画学会，13-16，2011. 6

村尾修：2011 年東北地方太平洋沖地震による石岡市および土浦市歴史地区における建物被害，2011 年度日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 F-1，日本建築学会，879-880，2011. 8

杉安和也，村尾修，川崎拓郎，古徳風空，星知世：被害想定と津波ハザードマップを用いた東日本大震災津波被災地における被害状況の考察，2011 年地域安全学会梗概集 No. 27，地域安全学会，91-94，2011. 5

シャー・エムディ・フォエズ，村尾修：ダッカにおける住民の地震リスク認識と安全対策傾向に関する調査報告，都市計画報告集 No. 10-1 (CD-ROM)，日本都市計画学会，13-16，2011. 6

村尾修：2011 年東北地方太平洋沖地震による石岡市および土浦市歴史地区における建物被害，2011 年度日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 F-1，日本建築学会，879-880，2011. 8

杉安和也，村尾修，川崎拓郎，古徳風空，星知世：被害想定と津波ハザードマップを用いた東日本大震災津波被災地における被害状況の考察，2011 年地域安全学会梗概集 No. 27，地域安全学会，91-94，2011. 5

◆ その他：

こども環境学会 子どもが元気に育つまちづくり 東日本大震災復興プラン国際提案競技 銀賞（優秀賞），2011. 9

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

全学組織：教育企画室 室員（TA/TF 制度改革 WG／二学期制移行 WG）

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

リスク工学専攻 達成度評価実施委員会，カリキュラム委員会，学年担当（1 年次），出版委員会

社会工学類 広報委員会，クラス担任（1 年次），外国語センター学類代表

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動（役員/委員、論文査読等）、学外から委嘱された委員、兼業など。

日本建築学会：都市防災システム都市リスクマネジメント WG／都市防災システム都市リスクマネジメント WG／東北地方太平洋沖地震調査復興支援本部 復旧復興支援部会／災害本委員会幹事

都市計画学会：四川大地震復旧・復興調査特別委員会

地域安全学会：理事／表彰委員会／広報委員会

地震工学会：リモセン研究委員会

川崎市：防災会議専門委員／地震被害想定・地震防災戦略部会

名取市：新たな未来会議委員

氏 名	村上 暁信	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 持続環境学専攻		専任 兼担
専攻（博士前期課程）	環境科学専攻 社会システム工学専攻 経営・政策科学専攻		専任 専任 専任
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	緑地環境学，都市農村計画学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市環境保全計画，都市計画マスタープラン実習，社会工学実習，
現代都市環境論，東京の都市学，総合科目「都市・地域・環境を探る」
大学院前期課程 都市景観論，景観計画論，環境科学実習

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／社会システム工学専攻 4人/
環境科学専攻 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 科学研究費補助金 若手研究（A）「樹冠表面温度を利用した都市気温分布図の作成と緑地の気候緩和機能の分析」（代表）
- 共同研究「横浜駅周辺のヒートアイランド対策に係る共同研究」（相手方機関：横浜市）（代表）
- 人間文化研究機構・総合地球環境学研究所 Full Research 研究プロジェクト 「都市をめぐる循環と多様性：人類と地球環境を架橋する巨大で複雑なシステムの未来可能性」（分担）

◆ 著書・論文等：

<査読付学術雑誌掲載論文>

- Hara, Y., Furutani, T., Murakami, A., Palijon, A. M., Yokohari, M. : *Current organic waste recycling and the potential for local recycling through urban agriculture in Metro Manila*. Waste Management & Research, 29(11), 1213-1221, 2011

- 村上暁信，パリホン アルマンド：東南アジア大都市における都市化の特徴と熱環境への影響．ランドスケープ研究，74(5)，703-706，2011
- 佐藤隼，村上暁信：公園内の熱放射環境と幼児の行動から捉える熱中症の危険性．ランドスケープ研究，74(5)，581-584，2011
- 多田裕樹，村上暁信：都市およびその近郊地域におけるソメイヨシノの開花日と周辺土地被覆の関係．ランドスケープ研究，74(5)，511-514，2011
- 佐藤理人，村上暁信：3D CAD による日積算受熱日射量分布を用いた熱環境緩和のための緑化手法に関する研究．ランドスケープ研究，74(5)，699-702，2011
- 高田真人，村上暁信，梅干野晃：江戸および明治時代の史料にみられる江戸町屋敷居住者の夏季の滞在空間と環境調整行動—江戸時代後期の江戸町人地における居住者の生活行動を考慮した夏季熱環境の評価(その 2)．日本建築学会環境系論文集，76(661)，307-316，2011

<解説論文・総説論文>

- 村上暁信：ランドスケープ・リテラシーと都市デザイン．都市計画，60(5)，76-77，2011
- 村上暁信：都市住民をいかした農づくり．区画整理，54(4)，17-23，2011

◆ 学会発表等：

- 村上暁信：成熟社会におけるランドスケープ像．日本都市計画学会集中討議「2050 年に向けて都市計画はどう考えるか？」(2050 年の「都市像」・「都市計画」)(講演，パネルディスカッション・パネラー)，2011.7.2

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等)：
 - 環境科学専攻 JDS 委員，部屋利用 WG 委員，環境科学専攻将来検討ワーキング委員
 - 学類 カリキュラム委員
 - SSM カリキュラム委員，広報委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本学術会議連携会員(第 22 期)(平成 23 年 10 月～)
- ◆ 「横浜市エキサイトよこはま 22 環境検討部会」委員(平成 23 年度～)
- ◆ 「科学技術振興機構のサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業「若い世代による土浦市中心市街地活性化プラン」」(平成 23 年度)

氏 名	桃田 朗	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	マクロ経済理論、人口経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 微積分Ⅰ、少子・高齢化社会における社会経済システム、公共システム演習
 大学院 マクロエコノミクス、社会経済演習、財政政策
- ◆ 指導学生数：

社会工学類 2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(C)「人口減少社会のもとでの経済システムについての理論的考察」
 (代表)
- ◆ 著書・論文等：

Akira Momota and Ryo Horii, “Timing of Childbirth, Capital Accumulation, and Economic Welfare,” accepted for publication in Oxford Economic Papers.
 Akira Momota, “Population Aging and Sectoral Employment Shares,” accepted for publication in Economics Letters.
- ◆ 学会発表等：

討論者 日本経済学会秋季大会（筑波大学）：論文 Public Debt and Child Allowance in an Endogenous Fertility に対するコメント
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

なし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院 合同運営委員会

4. 学外社会貢献

◆ 論文査読

Journal of Health Economics (2 件)

Journal of Economic Dynamics and Control

金融経済研究

氏 名	山本芳嗣	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	数理工学、最適化、オペレーションズ・リサーチ		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 微積分 II、サービスの産業と組織、微積分基礎、計算機科学
 大学院前期課程 経営工学における課題と方法、最適化理論

◆ 指導学生数：

社会工学類：2名
 社会システム工学専攻：4名
 社会システム・マネジメント専攻：2名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究 (C)「厳密な最小違反順序計算アルゴリズムの開発」(代表)

◆ 著書・論文等：

- S. Ryuo, K. Sato and Y. Yamamoto, “Parameterized fairness axioms on cycle-free graph games,” *Journal of Global Optimizaition* **52** (2012) 487-497;
DOI 10.1007/s10898-011-9761-7.
- N. Sukegawa, Y. Yamamoto and L. Zhang, “Lagrangian relaxation and pegging test for linear ordering problems,” *Journal of the Operations Research Society of Japan* **54** (2011) 4, 142-160.
- J. Gotoh, Y. Yamamoto and W. Yao, “Bounding contingent claim prices via hedging strategy with coherent risk measures,” *Journal of Optimization Theory and Applications* **151** (2011) 3, 613-632; DOI 10.1007/s10957-011-9899-y.
- 後藤順哉, 高野祐一, 山本芳嗣, 和田保乃「企業価値変動モデルと CVaR を用いた与信ポートフォリオ最適化問題とその効率的解法」 *Transaction of the Operations Research Society of Japan* **54** (2011) 23-42.

学会発表等：

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
第3学群FD委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻：カリキュラム委員
社会工学類 運営幹事、中期計画委員、授業評価委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会理事（編集担当）、表彰委員会委員、広報委員会委員

氏 名	吉瀬 章子	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻		専任
	経営・政策科学専攻		専任
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	数理最適化，オペレーションズ・リサーチ，サービス・サイエンス		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 問題発見と解決／数理計画／数学の言葉

大学院前期課程 先端最適化特論

◆ 学類卒業生，博士前期・後期課程修了生の氏名と論文題目

博士前期修了生

（社会システム工学専攻）

佐藤俊樹「誤差のないセンサーネットワーク位置同定問題に対する半正定値緩和法に基づく解の精度向上について」

竹口哲平「ホテル業務におけるシフト割当の効率化と支援システムの作成」

（経営・政策科学専攻）

秦文文「筑波サービスが経営する院内売店の運営効率化のための基礎研究－POS データを用いた購買動向分析とシフト決定システムの作成－ 第4章 購入頻度が高い弁当の購買動向に季節・天候が与える影響の分析」

宋揚「筑波サービスが経営する院内売店の運営効率化のための基礎研究－POS データを用いた購買動向分析とシフト決定システムの作成－ 第2章 購入頻度からみる優良顧客の購買動向分析」

李煜「筑波サービスが経営する院内売店の運営効率化のための基礎研究－POS データを用いた購買動向分析とシフト決定システムの作成－ 第5章 パート従業員のシフト決定システム作成」

学類卒業生

（社会工学類）

鈴木諒「凸2次計画問題に対するソフトウェアの数値実験比較」

森口まりな「複合映画館における上映スケジュールの作成」

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究（B）「錐最適化における新たなパラダイム：二重非負値行列錐上の

最適化とソフトウェアの開発」(代表)

科学研究費 基盤研究 (A)「患者の満足とスタッフの適正労働を実現する地域基幹病院の医療サービス科学」(分担)

科学研究費 基盤研究 (B)「連続最適化による混合整数計画問題の大域的解決と情報技術への応用」(分担)

科学研究費 基盤研究 (C)「ネットワーク構造解析アルゴリズムの開発とネットワークアルゴリズムの総合的展開」(分担)

共同研究 (牛久市)「コミュニティバス運行最適化に関する研究」(代表)

V B L教育支援プログラム「サービス・イノベーションのための起業インターンシップ・プログラム」(代表)

◆ 著書・論文等：

Akiko Yoshise

Complementarity Problems over Symmetric Cones: A Survey of Recent Developments in Several Aspects, *Handbook on Semidefinite, Conic and Polynomial Optimization*, pp.339-376, 2011/12, Springer

Yasuaki Matsukawa and Akiko Yoshise

A Primal Barrier Function Phase I Algorithm for Nonsymmetric Conic Optimization Problems, Discussion Paper Series No 1284, 2011/11, University of Tsukuba

高木英明, 吉瀬章子

「サービスサイエンスの動向」電子情報通信学会誌, 電子情報通信学会 94/9, 756-759, 2011/09

◆ 学会発表等：

Yasuaki Matsukawa and Akiko Yoshise

A Primal Barrier Function Phase-I Algorithm for Nonsymmetric Conic Optimization Problems, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会, 2012/03/28, 防衛大学校

Yasuaki Matsukawa and Akiko Yoshise

A Primal Barrier Function Phase-I Algorithm for Nonsymmetric Conic Optimization Problems Graph CREST, International Workshop, 2012/03/23, 中央大学

Yasuaki Matsukawa and Akiko Yoshise

A Primal Barrier Function Phase-I Algorithm for Nonsymmetric Conic Optimization Problems, 研究集会「最適化：モデリングとアルゴリズム」, 2012/03/15, 政策研究大学院大学

吉瀬章子

「最適化モデリング人材育成の取り組み」東京大学生産技術研究所 合原研究室セミナー, 2011/05/23, 東京大学生産技術研究所

Yasuaki Matsukawa and Akiko Yoshise

Optimization over the Doubly Nonnegative Cone, SIAM Conference on Optimization,
2011/05/16, Darmstadt Conference Center, Darmstadt, Germany

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
(全学組織)
男女共同参画推進室室長
グローバルリーダーキャリア開発ネットワーク副ネットワーク長
保育所運営委員会委員
保育施設及び病児保育に係る検討WG構成員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
(社会システム・マネジメント専攻) 予算委員
(社会工学類) 卒業生連絡委員会委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動（役員/委員、論文査読等）
Pasific Journal of Optimization 編集委員
日中最適化会議運営委員
日本オペレーションズ・リサーチ学会表彰委員
日本オペレーションズ・リサーチ学会数理計画研究部会（RAMP）運営委員
論文査読：Mathematical Programming, SIAM Optimization, Journal of Computational and Applied Mathematics, Optimization Letters, Nonlinear Analysis Series A: Theory, Methods & Applications, 等
- ◆ 学外から委嘱された委員、兼業など

氏 名	吉野 邦彦	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 持続環境学専攻	専任 兼任	
専攻（博士前期課程）	環境科学専攻 社会システム工学専攻 経営・政策科学専攻	専任 専任 専任	
担当学類	専 社会工学類	兼	無
研究分野	環境影響評価，リモートセンシング		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市計画実習，都市データ分析，環境科学とリスクマネジメント，都市計画情報実習

博士前期課程：地理情報演習，環境空間情報工学，環境共生科学概論，環境科学実習

◆ 指導学生数：

卒論生 0名，環境科学専攻 6名 社会システム工学専攻 1名

持続環境学専攻 2名 環境科学専攻研究生 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1) 科研費 開学調査研究 (B) (分担)

大規模灌漑事業の持続性および農村地域社会の開発効果に関する実証的研究

2) JST 戦略的創造研究推進事業研究領域「二酸化炭素排出抑制に資する革新的技術の創出」(共同研究者)

3) 植物形態の3Dモデリング手法の開発

4) 釧路湿原植物群落の環境影響評価に関する研究

◆ 著書・論文等：

1) Mohamed Kefi, Kunihiro Yoshino(2011), Assessment of the effects of vegetation on soil Erosion risk by water : A case of study of the Batta watershed in Tunisia, *Environmental Earth Sciences*, 64(3), 707-719, DOI 10.1007/s12665-010-0891-x (査読有)

2) Yudi Setiawan, Kunihiro Yoshino(2011), “Land use change detection by characterizing the vegetation dynamics: Case study of Java Island, Indonesia, 写真測量とリモートセンシング , Vol. 50(2), pp. 96-103, (査読有)

3) Yudi Setiawan, Kunihiro Yoshino, Bill Philpot(2011), Characterizing temporal

vegetation dynamics of land use in regional scale of Java Island, Indonesia Land Use *Science, iFirst*, 1-30, DOI:10.1080/1747423X.2011.605178 (査読有)

4) Mohamed Kefi, Kunihiro Yoshino(2011), Combination Approach to Assess Offsite Value of Soil Erosion Risk in Watershed in Tunisia, *Journal of International Environmental Application & Science*, Vol. 6, No. 4, pp. 521-536

◆ 学会発表等：

1) Khishigsuren NYAMSAMBUU, Kunihiro YOSHINO, Yudi SETIAWAN and Mohamed KEFI (2011.5), Characteristics of spatial distribution of aboveground biomass in Bayan soum, Mongolia, International Conference on Arid Land, Narita

2) Abeer Elwan & Yoshino(2011.5), Using Landsat ETM+ to detect some soil characteristics in Egypt, International Conference on Arid Land, Narita

3) Yudi Setiawan, Kunihiro Yoshino, Land-use change detection using characterizing temporal vegetation dynamics in Java Island, Indonesia, HSC003-08 (oral), page 8, IHDP Session Abstract Proceeding of JpGU International Symposium 2011, (May 22 -27, 2011, Makuhari Messe, Chiba).

4) Yudi Setiawan, Kunihiro Yoshino, Characterizing temporal vegetation dynamics of land use: Case of agricultural lands in Java Island, Indonesia, HGGU001-P04 (poster), page 19, GLP Session, Abstract Proceeding of JpGU International Symposium 2011, (May 22 -27, 2011, Makuhari Messe, Chiba).

5) Yu-Chuan Chang, Chun-E Kan, Chang-Chi Cheng, Kuo-Hua Lin, Kunihiro Yoshino, Eiji Yamaji, Eikichi Shima, Hiroyuki Fujisaki, Masaya Ishikawa, Atsushi Ishii, Wei-Fuu Yang, History of Large Scale Irrigation and Drainage Projects and the Growth of Regional Societies in Taiwan, CIGR2011, 22HOS2-03, 1-9, 2011.0923, Tokyo

6) Yudi Setiawan & K. Yoshino (2011), Characterizing Temporal Vegetation Dynamics of Wavelet-filtered MODIS EVI to Detect Land Use Change in Java Island, Proc. of ACRS2011 Taipei, DVD P_172_8-31-13.pdf

7) Khishigusren Nyamsambuuy & Kunihiro Yoshino (2011), Characteristics of Spatial Distribution of Aboveground Biomass and Vegetation Index in Bayan soum, Mongolia, Proc. of ACRS2011 Taipei DVD P_245_9-14-20.pdf

8) Pham Tien Dat & Kunihiro Yoshino (2011), Monitoring Mangrove Forest Using multi-Temporal Satellite Data in the Northern Coast of Vietnam, Proc. of ACRS2011 Taipei, DVD P_239_8-15-00.pdf

9) Abeer Elwan & Kunihiro Yoshino (2011), Mapping Soil Minerals in the Arid Region Using Landsat ETM+, Proc. of ACRS2011 Taipei, DVD 462_7-10_ELWAN Abeer.pdf

10) Y.C. Chang, R.S. Chen, K.H. Lin, Y.C. Cheng, J.I. Hu, E. Yamaji, K. Yoshino, E. Shima, H. Fujisaki and M. Ishikawa, Adapting the Water Management Practice to

the Double Exposure: The System of Rice Intensification in Taiwan, Proceedings of PAWEES 2011 International Conference, 2011108, 54-55, Taiwan.

11) E.Yamaji, K. Yoshino, E. Shima, H. Fujisaki, M. Ishikawa, E. Suhartanto, B. Setiawan, and M. Harianto, Harry, Agricultural Land Use and Prospect in Brantas River Basin in Indonesia, Proceedings of PAWEES 2011 International Conference, 2011096, 92-93, Taiwan.

◆ その他：

ACRS2011 Taipei, Accommodation Support Award: “MONITORING MANGROVE FOREST USING MULTI-TEMPORAL SATELLITE DATA IN THE NORTHERN COAST OF VIETNAM”, Pham Tien Dat and Kunihiko Yoshino

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

シス情：研究倫理委員会委員

理工学群： 総合政策室員，学群 FD 実行委員会委員長，全学 FD 委員会委員

専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

学類予算委員，社会システム・マネジメント専攻総務委員会委員長，

環境科学専攻：ICEP 委員，JDS 委員会委員長，将来検討 WG 委員

北アフリカ研究センター共同研究員

4. 学外の社会貢献

◆ JSPRS 論文編集委員ならびに学会評議員

氏 名	渡 辺 俊	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻	専任	
	経営・政策科学専攻	専任	
	環境科学専攻	兼任	
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	建築計画、都市計画、空間情報科学、デザイン科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：

学類 都市空間の計画とデザイン／都市計画情報実習／
街並みデザイン演習／アメニティ創造のまちづくり実習／
東京の都市学／テクニカルライティング

大学院前期課程 空間情報科学／環境デザイン論
- ◆ 指導学生数：

社会工学類 1人／社会システム工学専攻 5人／

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(C)「ポスト定住化社会における時空を超えたアクティビティの流動化実態に関する実証的研究」（代表）

科学研究費 基盤研究(A)「地理情報科学と都市工学を融合した空間解析手法の新展開」（分担）
- ◆ 著書・論文等：

Shun Watanabe：Simulating 3D Architecture and Urban Landscape in Real Space、Proceedings of the 16th Conference on Computer-Aided Design Research in Asia (CAADRIA 2011)、261 頁～270 頁、2011 年 4 月
- ◆ 学会発表等：

渡辺俊：デザイン科学のためのアルゴリズム教材、第 34 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、2011 年 12 月

松林道雄・渡辺俊：建築完成後のデータベース変更による維持管理に関する研究－3Dモデルによるキャンパスデータベースの提案－、第 34 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、2011 年 12 月

松下拓未・渡辺俊：地域情報発信ツールとしての大型ビジョンの可能性に関する研究、関東支部研究報告集、日本建築学会、2012 年 3 月

工藤はるな・藤井さやか・渡辺俊：東日本大震災時のつくば市内における情報伝達の地区的差異、関東支部研究報告集、日本建築学会、2012 年 3 月

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会システム工学専攻修論委員
社会工学分野大学院 コンピュータ委員
社会工学類 コンピュータ委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 国土技術総合研究所技術提案評価審査会委員

氏 名	渡辺 真一郎	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻 専任 経営・政策科学専攻 専任		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	組織行動論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 経営組織論、社会調査法、経営工学概論
 大学院 組織行動論

◆ 指導学生数：

社会工学類 6名；社会システム工学専攻 1名； 社会システム・マネジメント 1名
 経営・政策科学専攻 5名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究（B）（一般）「看護行動研究への組織心理学的アプローチ」（代表）
 科学研究費 挑戦的萌芽研究「看護行動研究の新たな地平線構築」（代表）

◆ 著書・論文等：

Watanabe, S., Tareq, M., & Kanazawa, Y. (2011). When openness to experience and conscientiousness affect continuous learning: A mediating role of intrinsic motivation and a moderating role of occupation. *Japanese Psychological Research*, 53 (1), 1-14.

◆ 学会発表等：

Watanabe, S., Tanaka, D., Kanazawa, Y., & Kwantes, C. (2011). A 'Big-5' and achievement motive interaction model of customer orientation among Japanese salespeople. *Association for Psychological Science Proceedings*, 2011, 225.

Watanabe, S., Okada, Y, Sumita, U., & Hashimoto, R. (2011). A closer look at the underlying dimensionality of Type-A personality. *Association for Psychological Science Proceedings*, 2011, 19.

- ◆ その他：なし

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
国際戦略室委員
教職課程委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類 カリキュラム委員
 クラス担任（1年生）

4. 学外の社会貢献

- ◆ Cornell Admissions Ambassador Association Network 委員
- ◆ 経営行動科学学会理事

氏 名	渡邊 直樹	職 名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会システム・マネジメント専攻 専任 人文社会科学研究科経済学専攻 兼担		
専攻（博士前期課程）	社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻 専任 人文社会科学研究科経済学専攻 兼担		
担当学類	専 社会工学類	兼	
研究分野	ミクロ経済学、ゲーム理論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 社会工学実習、ミクロ経済学、社会工学における戦略的思考：理論、実験及び演習、社会経済特別講義（artisoc による人口社会構築入門）

大学院 応用ゲーム理論

◆ 指導学生数：

3名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

<課題> パテントプールにおける利得配分問題、特許ゲームの交渉解（カーネル、仁、安定集合）の計算、重み付き投票ゲームの被験者実験、下請入札を伴う政府調達オークションの理論と被験者実験、複数単位入札の被験者実験

<研究費>

科研費（若手 B、代表者）「パテントプールにおける利得配分問題」、二国間交流事業（分担者、日本学術振興会とフランス国立科学研究センター(CNRS)）「状況認識と行動学習の相互作用に関する二国間比較」、二国間交流事業（分担者、日本学術振興会とフランス国立研究機構(ANR)）「エージェントシミュレーション研究に関する行動認識論的基礎付け」

◆ 著書・論文等：

(1) “Bargaining Outcomes in Patent Licensing: Asymptotic Results in a General Cournot Market,” (with Shin Kishimoto and Shigeo Muto), *Mathematical Social Sciences* 61, 114-123, 2011. (2) “An Experimental Study of Bidding behavior in Procurement Auctions with Subcontract Bids: Profits, Efficiency, and Policy Implications,” *Proceeding of SICE, IEEE Xplore*, 1202-1207, 2011

◆ 学会発表等：

(1) “An Experimental Study of Bidding behavior in Procurement Auctions with Subcontract Bids: Profits, Efficiency, and Policy Implications,” SICE Annual Conference, Sept 15, 2011. (2) “A Note on a Weighted Voting Experiment: Human Mistakes in Cooperative Games,” Sept 16, TECR ミクロコンファレンス (17th Decentralization Conference)

◆ その他：

レフェリー：Japanese Economic Review

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

<学類> 1 年生担任、授業評価委員

4. 学外の社会貢献

◆ organizer and program committee member, TCER Micro Conference (17th Decentralization Conference)